2015 年度

高校生国際協力実体験プログラム

報　告　書

2015 年（平成 27 年）

1 回目　7 月 29 日 ～ 7 月 31 日

2 回目　8 月 19 日 ～ 8 月 21 日

独立行政法人　国際協力機構
九州国際センター（JICA 九州）

<目　　次>

１．は　じ　め　に　…… 1

２．高校生国際協力実体験プログラム報告

プ　ロ　グ　ラ　ム

開会式・オリエンテーション　…… 3

アイスブレイキング　…… 4

ク　バ　ー　ラ　…… 6

国際交流パーティ　…… 8

アイスブレイキング「ナマステ体操」…… 10

国際理解ワークショップ「貿易ゲーム」　…… 11

青年海外協力隊体験談　…… 12

青年海外協力隊活動計画作り　…… 14

青年海外協力隊活動計画発表　…… 16

ふりかえり・閉会式　…… 18

参加校一覧・スタッフ一覧　…… 19

３．添　付　資　料

・高校生国際協力実体験プログラム募集要項…… 21

・アンケート集計結果（参加生徒・教員）…… 30

1. はじめに

【事業の結果概要】

1996年よりJICA九州は、九州の高校生の開発途上国への理解を深めることを目的とした「高校生国際協力実体験プログラム」を実施しており、今回で20回目を迎えた。

本年度は九州7県から30校（内2校は2チームでの応募）からの応募があったため、応募書類に関しての選考を行い、20校を合格とした。結果、計94名（生徒74名、教員20名）が本プログラムに参加した。

事前学習として、各県国際協力推進員が参加校を訪れ、JICA事業の紹介を行った。また参加する生徒達には、プログラム参加前の「国際協力」に関するイメージをウェビング※1により記述してもらい、プログラム後との比較を行った。

プログラムの第1回目は7月29日から7月31日、第2回目は8月19日から8月21日にかけての2泊3日でJICA九州にて行なわれた。アイスブレイキングで緊張をほぐした後、クバーラ※2、JICA研修員受入事業により各国からJICA九州に来ている研修員との交流、貿易ゲーム、元青年海外協力隊員による体験談、青年海外協力隊活動計画作り・発表等を行なった。

生徒・教員に対するアンケートの結果からは、ほぼ全員がプログラムに対して満足していることが伺えた。

生徒達の意見としては、体験談で生の声を聞いて、ますます青年海外協力隊に行きたくなったという声や、活動計画作りの過程で、一つの問題を解決しようとしても、問題が絡まり合っていてなかなかうまくいかないなど、2泊3日の短い期間のなかで、国際協力の現場と実際を知り、これまで考えてみたこともないような知識や考察を得てもらうことができたのではないかと感じる。

プログラム全体を通しての参加者の評価は以下の通りである。

【アンケート結果】

・3日間を通してプログラムの内容の満足度は何％でしたか（94名中）

満足度（％）	100以上	90～99	80～89	80未満	無回答
人数	60人	26人	6人	1人	1人

ほとんどの参加者が90％以上の満足度を示しており、今回のプログラム内容が充実したものであり、参加者の期待に応えられていたことが伺える。

また、満足度が100％ではない理由としては、「もっと積極的になれれば」「ここで満足してはいけないと思った」などの意見が挙げられており、自分自身に対する反省や向上心のあわられであることが伺える。

参加教員からの要望や改善点としては、教員とスタッフとの懇親会が大変盛り上がったこともあり、生徒と青年海外協力隊経験者としてのスタッフとの交流の時間があればよい、と

いう意見が挙げられた。

また、生徒・教員とも、JICA 研修員ともっと話がしたかったという意見があったが、本来の研修に支障をきたさない範囲で協力してもらう以上、なかなか要望に応えられないところではある。

以下、各プログラムの概要と参加者からの意見を記している。多くのプログラムにおいて「考えさせられた」「もう少し深めたかった」といった感想が挙がっており、今後も反省を踏まえながらより良いプログラムを実施していきたい。

※1「ウェビング」

一つの題材・単語（本プログラムの場合は「国際協力」）を中心として、その題材から連想できるものを書き出していき、周りに網の目のように線でつなげていく方法。グループ内での各個人の意見を共有し、課題抽出や課題解決などの計画策定に用いられる手法。

（ウェビングの様子）

※2「クバーラ」

アフリカのマダガスカルに伝統的にある遊びで、日本の鬼ごっこのようなゲーム。青年海外協力隊でマダガスカルに赴任していた元青年海外協力隊員が日本に持ち帰り、普及活動を進めている。道具が必要なく、ルールもシンプルではあるが、仲間とのコミュニケーションがとても重要になる。グループ内でのアイスブレイクとして、2011 年度よりプログラムに取り入れている。

（クバーラ作戦会議の様子）

2. 高校生国際協力実体験プログラム報告

【プログラム名】

開会式・オリエンテーション

担当：山田 泰子（佐賀県国際協力推進員）

(1) ね ら い

- プログラムの開会をもって参加への意識を高める。
- プログラムの目的および意義を確認することで、より質の高いプログラムを目指す。
- プログラム運営スタッフを紹介し、青年海外協力隊経験者の存在を認識する。

(2) 概　　要

「高校生国際協力実体験プログラム 2015」を開催するにあたり、JICA 九州国際センター所長の井﨑（1 回目は市民参加協力課課長田中）が開会の挨拶を行った。

JICA が実施している国際協力事業について説明を行った後、私たちの生活と世界はつながっており、国際協力は私たちの日常の中に存在していること、このプログラムに参加したこと自体が国際協力に参加していることを意味すると述べた。また九州の国際協力の拠点となる JICA 九州で過ごすプログラムの中で、多くの人と出会い、交流し、様々なことを積極的に学んで欲しいと参加者への期待を述べた。

開会挨拶後、本プログラムの流れについて、パンフレット（スケジュール予定表）をもとに確認した。その後、3 日間を共に過ごすスタッフ（九州各県の国際協力推進員、(特活) 九州海外協力協会職員、2 回目のみインターン生）の自己紹介を行った。

最後に、(特活) 九州海外協力協会職員より、3 日間を九州国際センターで過ごすにあたっての注意事項、諸連絡を行った。

（開会式の様子）

（スタッフ自己紹介）

【プログラム名】

アイスブレイキング

担当：山田 泰子（佐賀県国際協力推進員）

(1) ね ら い

- 参加者の緊張をほぐし、プログラム全体に参加しやすい雰囲気を作る。
- ゲームを通して、世界と自分との距離を徐々に近づけていき、本プログラムの導入とする。
- グループ分けをして、その後のプログラムにつなげる。

(2) 概　　要

5つのワークを通して､学校単位から､個人､そして新しいグループ形成に移行していく。あえて言葉を使わないワークから始まり、徐々に他者と関わり合うような段階を経ることで緩やかに緊張をほぐしていく。

＜内　容＞

① 学校紹介：事前学習で宿題になっていた学校新聞を使って、1 分間スピーチで自分の学校を紹介する。

② バースデーライン：言葉を使わずに誕生日順に参加者で円を作る。

③ 部屋の四隅：共通点と相違点を探していく。

【1 回目】

1）出身県（各地の国際協力推進員の周りに集まる）
2）部活（運動部、文化部、なし、他の習い事）
3）好きな国の料理（日本、中華、アジア、その他）
4）行ってみたい国・地域（アジア、アフリカ、中南米、中東 / 大洋州）
5）今の気持ち（どきどき・わくわく・びくびく・その他）

【2 回目】

1）朝ごはんを毎日食べる
2）学校が好きである
3）今年の夏お祭りに行った
4）将来の夢がある
5）このプログラムへの参加がこの夏のいちばんの楽しみだった
6）スペイン語の勉強をがんばってきた
7）今、緊張している
8）今、眠い

④ グループ分け：名札に仕込まれた MDGs のマークを使ってグループ分け。8 つのゴールについての解説。

⑤ グループ内自己紹介:グループに分かれてお互いの自己紹介。(ニックネーム､学校名、好きな食べ物、プログラムでいちばん楽しみにしていること)

（3） 参加者からの声

【生　徒】

・ 初めは緊張していましたが、みんなのことを知っていくうちにドキドキよりもワクワクが大きくなりました。これからの３日間が本当に楽しみになりました！

・ 部屋の四隅というゲームでは初めて出会った友達と打ち解けることができました。また言葉を話さずに誕生日の順に並ぶ遊びでは、改めて言葉を話すことの重要さを感じることができました。

【教　員】

・ 全体を通して大変良い活動でした。学校紹介では、１分間の制限時間をオーバーさせなかったのは良かったです。生徒は決められたルールを守る事の大切さも分かり、その後の活動もスムーズに流れると思います。

（学校新聞を用いて学校紹介）

（バースデーライン）

【プログラム名】

クバーラ

担当：大野 章子（熊本県国際協力推進員）

(1) ねらい

- 青年海外協力隊による活動の一例（クバーラの普及啓発活動）を知る。
- クバーラを通し、コミュニケーションの大切さを体験する。
- ゲームを通じ、3日間を共に過ごすメンバーらと協力し団結力を強めることで、その後のプログラムの中でグループ活動を行いやすい環境を作る。

(2) 概　要

マダガスカルの遊びであったクバーラをひとつのスポーツとしてルールを整え、普及した青年海外協力隊の活動を紹介後、クバーラを説明・実施。クバーラでは、作戦やグループ内の協力がゲームを左右するので、徐々にチーム内のコミュニケーションが深まっていった。

＜内　容＞

① マダガスカルの紹介
② 青年海外協力隊（派遣国：マダガスカル・職種：青少年活動）によるクバーラ普及啓発活動紹介（DVDを視聴）
③ クバーラルール説明
④ 準備体操（ギニア語のラジオ体操）
⑤ クバーラ体験（作戦タイム含む）

(3) 参加者からの声

【生　徒】

- 最初にグループに分かれて自己紹介をしたときはみんな少し固まり気味で、会話もそんなに発展しなかったが、ゲームの作戦を考えたり、応援し合っているうちに会話や

（クバーラの様子）

（作戦会議の様子）

笑顔が増えていった。クバーラというチームの団結力を高めるスポーツによってみんなの距離がぐんと縮まった気がした。

・ 全く新しい遊びで、他国の文化を身をもって体験することができ、とても楽しめました。

【教　員】

・ マダガスカルの体育の授業の実態が日本とずいぶんと違う事に驚いた。協力する事、ルールを守る事（整列を守る事）など、当たり前のことをクバーラというスポーツで体感させ、スポーツの面白さや勝つ事の喜びを子どもの頃に経験させるような工夫の視点は思いつかなかった。高校生は頭の回転も早く、人間関係も上手く作れていてかなわなかった。

・ 良く出来たスポーツだと思った。ルールは簡単なスポーツであるが、チームワークがないと全体のつながりがなくなり、得点する事ができない。学校に帰ってこのスポーツを取り入れてみたいと思う。

【プログラム名】

国際交流パーティ

担当：北園 さつ紀（宮崎県国際協力推進員）

(1) ね ら い

- JICA 研修員との交流を通して異文化への理解を深める。
- 十分に言葉が通じない相手とのコミュニケーションを体験し、コミュニケーション能力を高める。
- 相手を理解しようとすることの大切さや意義に気付き、それが日常生活へも通じることに気付く。
- 世界各国の料理を味わうことで食文化の違いを理解し、また日本食を紹介することにより自国の食文化を振り返る。

(2) 概　　要

JICA 九州の技術研修員 1 ～ 2 名が高校生の各グループに入り交流を行った。

【1 回目】先進国市場を対象にした輸出振興／マーケティング戦略（B）コース 10 名
（エチオピア 2 名、マラウイ 2 名、モザンビーク 1 名、スーダン 2 名、スワジランド 1 名、タンザニア 2 名）

【2 回目】中南米地域中小企業・地場産業活性化コース 10 名
（ボリビア 2 名、（以下各 1 名）アルゼンチン、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エルサルバドル、パラグアイ、ペルー）

- 研修事業、JICA 研修員について確認
- （2 回目）フォトランゲージ「地球の食卓を見てみよう」
- 全体での JICA 研修員紹介
- グループに分かれて各自の自己紹介
- 「JICA 研修員の国について知ろう！日本を紹介しよう！」
- JICA 研修員が持参した各国の写真やパンフレットをもとに会話をしたり、日本についても紹介するよう促した。
- 「JICA 研修員の国の食事情調査！」
- （1 回目）伝統料理、お祝い料理、よく食べている料理、自慢の料理のうち 1 つのテーマと料理を選択し、その料理について材料や食べ方、いつ食べるのか等について JICA 研修員にインタビューする。聞きとった内容をまとめ、全体に発表した。
- （2 回目）テーマ：よく食べている料理、にて実施。

(3) 参加者からの声

【生　徒】

- 話す雰囲気や考え方等、今まで生活してきて初めてのものばかりだったが、普段自分がコミュニケーションをとる相手がいかに身近で狭い間柄であったかを実感した。
- 初めて間近で聞くスペイン語はとても新鮮だった。

（JICA 研修員の出身国について説明を受ける高校生）

（箸の使い方を教える高校生）

・　外国の友達が増えたらもっと楽しくなるだろうなと思った。
・　フォトランゲージでは驚きがたくさんありとても面白かった。国ごとに全く異なる料理や環境があり、たくさんの文化があると改めて実感した。
・　外国の方々との交流、今までに食べたことのない味に正直戸惑いを隠せなかった。

【教　員】

・　生徒達が身を乗り出して JICA 研修員のお話を一生懸命聴いている姿がとても良かった。
・　食事後のダンスの熱気に圧倒された。
・　フォトランゲージは、推測し、まとめて、プレゼンするという最近のまさにアクティブラーニングだと思った。
・　JICA 研修員の方々とのコミュニケーションは難しそうで心配していたが、ジェスチャーや絵を使ってお互いに理解し合っている姿を見て生徒達の成長を感じた。

【プログラム名】

アイスブレイキング「ナマステ体操」

担当：山田 泰子（佐賀県国際協力推進員）

(1) ね ら い

- 朝室内作業が続くプログラム開始前に、アイスブレイクも兼ねて、体操をすることで脳を活性化する。
- ネパールで一般的に実施されている「ナマステ体操」を紹介することにより、DVDから流れる言葉、音楽、体操の動きの中から異文化を感じる機会とする。

(2) 概　　要

日本のラジオ体操と同じように、ネパールでも国民に人気の体操「ナマステ体操」があることを紹介した。

ネパールでは多くの学校の朝礼や職場で導入されており、ヨガやネパールのダンス、武道の動きなども取り入れられている。3階大会議室の後ろ半分のスペースで、体操の隊形に開いて、DVDに合わせて、体操を実施した。

初めはゆっくりとした動きで始まり、後半には踊りのような激しい動きに変わっていくことから、一つ一つの動きを楽しみながら、和やかな雰囲気で終了した。異文化を感じながら、汗をかくことができ、朝一番のリフレッシュができた。

(3) 参加者からの声

【生　徒】

- ラジオ体操に似た運動が他の国にもあると知り、これ以外にも他の国のものもしてみたいと感じました。
- 日本人から見ると面白おかしく思えるが､ネパールの人達にとって普通の事で､ネパール人から見たら日本のラジオ体操が面白く見えるかも知れないと思った。

【教　員】

- 最初簡単そうに思え、途中から日本人には慣れていない動きがあり、生徒は大変楽しんでいた。朝のウォームアップというちょっとした活動においても異文化を感じることができ大変ありがたいです。

（体操の様子）

（動きの中にヨガのポーズも）

【プログラム名】

国際理解ワークショップ「貿易ゲーム」

担当：福永 みゆき（鹿児島県国際協力推進員）

(1) ね ら い

・「貿易」によって国家間の格差が広がる仕組みを疑似体験し、理解する。
・ 自由貿易や経済グローバル化が引き起こす様々な問題に気付く。

(2) 概　　要

8グループでベーシックな貿易ゲームを実施した。活動中、市場価値の変動・情報格差、役に立たない援助、新資源の発見など外的要因の変化を作った。
振り返りでは、スタート時に渡されたものを見直し、各グループに差があったことを確認した。稼いだ金額の順位発表を行い、また活動中の感想やお金を稼いだ方法、現実の世界との比較について意見を共有した。

(3)　参加者からの声

【生　徒】

・ 配られた道具や材料に差がある点が、先進国と途上国の現状と似ていると思った。
・ 紙（資源）とはさみや定規（道具）を交換することの難しさを感じ、グループ内で協力し分担する必要性を痛感した。
・ 交渉することで自国を発展させていくことが楽しかった。作戦を考え工夫し、チームのみんなで協力できた。
・ 他グループと同盟を組んで情報交換を行えたのが楽しかった。

【教　員】

・ 他者と協力する楽しさの中に学びがあって良かった。
・ 国と国との関係を経済的関係として疑似体験させ、自分の身に迫った感覚として国際関係を捉えられたのは良かった。
・ 自分で動いて他グループと交渉しなければいけない状況で、生徒は自ら動く積極性を身につけたようで、しっかりとした表情をしていた。

（他グループと交渉する様子）

（公平ではないマーケット）

【プログラム名】

青年海外協力隊体験談

担当：佐保 好信（大分県国際協力推進員）

(1) ね ら い

- もし自分が青年海外協力隊だったら？を想像してもらい、それぞれの意見を共有・発表する。
- 青年海外協力隊の体験談を聞くことで、苦労したこと、嬉しかったこと、現地の人々に教わったことなど、国際協力の一つである海外ボランティアについて知る。
- 異なる職種の体験談を聞くことで、将来の進路に役立てる。

(2) 概　　要

体験談に入る前に、ワークシートを配布して、問いに記入してもらう。

青年海外協力隊、JICA 研修員受入事業の概要を説明した後、元青年海外協力隊員の体験談を行った。体験談の次に行われるプログラム『活動計画作り』の参考になるよう、異なる職種の体験談を聞いてもらった。

体験談の内容は、「自分が高校生だった頃」、「応募前にどんな仕事をしていたのか」、「応募のキッカケ」、「派遣国について（国旗、場所、気候、言語、宗教、文化など)」、「活動内容（任地、配属先、要請内容など)」、「どうやってコミュニケーションをとっていたか」、「活動で苦労したとこと」、「嬉しかったこと」、「青年海外協力隊に参加して自分が変わったこと」など。

体験談終了後、ワークシートの残りの問い、感想を記入してもらう。その後、質疑応答。最後に数名に感想を発表してもらった。

【体験談発表者】

1 回目：佐保好信（フィリピン 服飾)、井口史子さん（ホンジュラス 家政）

（体験談①の様子）

（体験談②の様子）

（3） 参加者からの声

【生　徒】

・ 体験談を聞いて、もし自分が青年海外協力隊として２年間外国に住むとしたら、いったい何が出来るのだろう。今はまだ分からないけど、将来的に知識・技術などを得られたら、青年海外協力隊に参加してみたいと思いました。

・ 世界にはいろんな言葉がある。いままでは外国語といえば英語にしか興味がなかったけど、マイナー言語も話してみたい。それから私に出来る国際協力とはなんだろう？じっくり考えてみようと思う。

【教　員】

・ 体験談を楽しみにしていました。というのも私は海外旅行が好きで、今までいくつかの国々には行ったことがあります。ですがまだまだ知らないことだらけだなと。

・ 青年海外協力隊の方のお話を聞いて、それぞれの国の抱える問題をもっと知ろうと思いました。

・ 元青年海外協力隊の方のお話を聞いて、自分だったらどうしていたか。何が出来ただろうと考えました。今からでも遅くなければ（シニア海外ボランティアで？）、私もJICA のボランティアで、国際協力がしたいと思いました。

【プログラム名】

青年海外協力隊活動計画作り

担当：木村 暁代（長崎県国際協力推進員）

(1) ね ら い

青年海外協力隊になりきり、村をよりよくするための活動計画作りを行うことで、

- 現地の人びとにとって本当に必要な支援とは何かを考える。
- 様々な人との対話を通し、意見や文化の多様性を知り、お互いの価値観を尊重することの大切さに気付く。

(2) 概　　要

■ 導　　入

午前中の「青年海外協力隊体験談」プログラムの振り返りから開始。自分たちが開発途上国に、青年海外協力隊として「コミュニティ開発」という職種で派遣される設定を説明。「コミュニティ開発」は収入向上や衛生･感染症予防、教育、女性の地位向上、環境教育など、様々な活動が出来る職種である。

さらにJICAより届く要請書を配布し、派遣先の概要について説明。この要請に基づいて「活動計画」を作ることを説明した。活動計画の条件として、①チーム名、②活動計画名、③協力者、④対象者、⑤村の現状、⑥活動内容、⑦目指す将来の村のイメージの７点を盛り込むことを説明した。また、翌日の活動計画発表の要領、評価項目の４点（実現可能性、妥当性、持続性、独自性）についての説明を行った。

■ 村の関係者分析

1. ウエストティモール国バリボ村の場所、村の様子を写真で配り、気がついたことをグループ毎に話し合う。スライドに映し全体共有。
2. 「村には、どのような人が住んでいるか」等を付箋に書き出し、その人たちは村のどんな場所にいるか、ポスターに付箋を貼って全体共有する。
3. スタッフと生徒・教員による参加型寸劇で、バリボ村で起こり得る出来事について再現する。（1回目のみ。2回目は寸劇なし）

～寸劇の内容～　※それぞれの寸劇には村の特徴や問題点を織り交ぜている。

① 水汲みをする女の子（ジェンダー・水問題）
② 病院での出来事（栄養失調・母子保健）
③ 診療所での出来事（医療事情・識字率）
④ 市場での出来事（ゴミ問題・児童労働）
⑤ 役場の休憩時間（隊員登場、ゴミ問題）

■ 村の状況分析

1. （寸劇を実施した１回目のみ）寸劇後､寸劇を見て気がついたことを付箋に書き出す。
2. 情報シートを配り、ウエストティモール国およびバリボ村概要を読み込み、付箋に

①村の問題点、②村の良いところを書き出す。

3. ①、②をグループ内で共有する。発表しながら①②の付箋を分類し、ポスターに貼る。
4. 「ダイヤモンド・ランキング」で、9つに絞り込んだ問題点に順位をつけ、各グループが取り組むべき課題を決める。

■ 活動計画作成（グループワーク）

1. 村人と青年海外協力隊という設定で、バリボ村の村人に成りきったスタッフに、村人のニーズを質問しながら活動計画を具体的に作成する。
2. （1回目のみ）スタッフは青年海外協力隊経験者として再登場し、相談タイムを設けた。

（3） 参加者からの声

【生　徒】

- 一つの事を解決しようと考えるうちにいくつも問題が出てきて、一つでさえ解決する事は難しいのだと感じた。
- 村の人々には様々な状況や立場があるので、その人々一人ひとりから協力を得る事や、計画について誰一人不自由がないようにするという風にするのはとても難しい事だと思った。
- 本当に多くの問題があってすべてが絡み合っている中、解決していくのは本当に答えがないのだと分かったし、班の中での絆ができて、少しだけ良い案が出せて嬉しかった。

【教　員】

- ある国の援助を考えるときに、物事を多面的に見る、知恵を絞るといったことがいかに大切か学べたのではないかと思います。今後の生徒の課題解決力が増すと思います。
- グループ活動を通して、生徒たちがだんだん自分達の意見を述べたり、協力して計画を作っていくプラスの流れが目に見えて分かった。スタッフたちの楽しい演技で生徒たちの積極性も高まっていたようである。何事も「しかけ」が大切である事を学んだ。

（グループで村の問題について話し合う）

（活動計画作成中の様子）

【プログラム名】

青年海外協力隊活動計画発表

担当：三浦 菜津子（北九州市国際協力推進員）

(1) ね ら い

- 前日の「青年海外協力隊活動計画作り」で作成した「活動計画」を発表する。
- 大勢の人の前で発表する経験を通じ、自分の考えを伝えること、人の話を聞くことの大切さに気付く。
- 他のグループの発表や意見を聞くことで新たな視点を知り、国際協力に対する理解を深める。

(2) 概　　要

活動計画の発表後、生徒の発表に対し評価・投票を行い、その中の２グループを表彰する。

当日の流れは以下の通り。

① ルールの確認と評価シートの説明

発表は１グループ５分以内で全員が話し、村人に対して行うことをルールとした。投票は、評価シート（評価項目は実現可能性・妥当性・持続性・独自性の４つを５段階で採点）を参考に行うこととした。

② 活動計画発表

10 グループ（引率教員２グループと生徒８グループ）が順番に発表を行った。作成した計画内容は、教育、水質改善、保健衛生、環境教育、栄養改善など様々であった。質疑応答では、スタッフは村人として質問し、生徒は青年海外協力隊員としての視点で質問やコメントをした。

③ 投　　票

生徒・教員・JICA 関係者が行い、獲得票数の合計が多い順に１位・２位のグループを決定し、表彰を行った。

④ 講　　評

１回目は JICA 九州市民参加協力課の桑江、２回目は同課の課長である田中が、実

（教員チームの発表）

（生徒チームの発表）

際の国際協力の現場での事例も紹介しながら、各グループの長所や改善点に言及した。

⑤　ま と め

活動グループ毎に集まり、仲間に気持ちを伝え合った。

最後に、担当者のコメントとして、今回の活動計画作りで学んだことを活かし、新たな視点で日本や世界を見てほしいと述べた。

(3)　参加者からの声

【生　徒】

・　自分たちでは思い付かない事を考えているチームが多くて楽しかったし、色々な意見が聞けて良かった。

・　このプログラムを通して、世界のいろいろな問題を改めて考える良い機会になった。解決策を考えることで、今自分に出来ることを再認識する事が出来た。

【教　員】

・　学校の活動で不足している点（生徒達がディスカッションを通して、考えを整理し、それを人に伝えていくという体験をする）を訓練出来たことがとても良かった。

【プログラム名】

ふりかえり・閉会式

担当：ふりかえり：糀　広大（福岡市国際協力推進員）、
閉　会　式：山田 泰子（佐賀県国際協力推進員）

(1) ね ら い

- 3日間のプログラムの気付きを整理する。
- 今後の学校としての取り組みへの橋渡しをする。

(2) 概　　要

■ ふりかえり

グループを学校毎に作り直し、感情に焦点に当てつつ、3日間の気付きについて振り返った。

具体的にはワークシートを配布し、今の気持ちを選択肢の中から挙げさせ、そう思ったきっかけは何かなどについてまとめさせた。その後、ペアワークとしてお互いの意見を聞き取る時間をつくった。その際に、アクティブリスニングの手法を取り入れ、相手の考えを積極的に聞き取り､気付きがより深化するようにした。ペアワークの後は、事前学習で作成したウェビングを再度持ち出し、3日間の研修を通じてどのように変化があったかの確認の意味も込めて、再度事前学習と同じく「国際協力」をキーワードに10分間のウェビングを実施した。最後に､「国際協力の輪を広げるために何ができるか」について学校としてのアクションプランを作成し､「我が校の国際協力宣言」として全参加者の前で発表を行った。その際、既存の学校行事や、学校の特色、地域の強みなどを意識して実現が可能であるかどうかを重視するように伝えた。

■ 閉　会　式

プログラムの終了にあたり、JICA九州国際センター所長井﨑（1回目は市民参加協力課課長田中）が閉会の挨拶を行った。3日間を振り返り、プログラム終了が終わりではなく、これからが重要であり、学んだことを各個人、各学校にて還元し、今後の日本のためにも活かしてほしいと生徒に伝え、閉会の言葉とした。

（今後の取り組み発表）

（記念撮影）

高校生国際協力実体験プログラム　参加校一覧

＜第１回目：７月29日（水）～７月31日（金）　計49名＞

	県	立	高等学校名	生徒数	教員数
1	福　岡	県　立	八幡高等学校	4	1
2	福　岡	私　立	福岡海星女子学院高等学校	4	1
3	福　岡	私　立	明治学園高等学校	3	1
4	長　崎	県　立	大村高等学校	4	1
5	長　崎	県　立	長崎東高等学校	4	1
6	大　分	県　立	臼杵高等学校	4	1
7	熊　本	県　立	宇土高等学校	4	1
8	熊　本	県　立	熊本農業高等学校	4	1
9	鹿児島	県　立	錦江湾高等学校	4	1
10	鹿児島	県　立	川辺高等学校	4	1
小　　計（人）				39	10

＜第２回目：８月19日（水）～８月21日（金）　計45名＞

	県	立	高等学校名	生徒数	教員数
1	福　岡	県　立	香椎高等学校	4	1
2	福　岡	私　立	福岡工業大学附属城東高等学校	4	1
3	福　岡	私　立	福岡雙葉高等学校	2	1
4	佐　賀	県　立	佐賀農業高等学校	4	1
5	宮　崎	県　立	宮崎西高等学校	4	1
6	宮　崎	県　立	宮崎北高等学校	4	1
7	宮　崎	県　立	飯野高等学校	4	1
8	熊　本	県　立	済々黌高等学校	2	1
9	鹿児島	私　立	鹿児島純心女子高等学校	3	1
10	鹿児島	県　立	志布志高等学校	4	1
小　　計（人）				35	10

＊応募者のうち、事前に欠席の連絡をしてきた生徒が２名いた。また、当日急病のためさらに１名欠席。上記は実際の参加人数。

プログラム実施スタッフ一覧

	所属	名前	任国	職種
1	福岡市国際協力推進員	糀　　広　大	大洋州･ミクロネシア連邦	小学校教育
2	北九州市国際協力推進員	三　浦　菜津子	西アフリカ・ガーナ	PC インストラクター
3	大分県国際協力推進員	佐　保　好　信	東南アジア・フィリピン	服　　飾
4	佐賀県国際協力推進員	山　田　泰　子	大洋州・バヌアツ	看　護　師
5	長崎県国際協力推進員	木　村　暁　代	東南アジア・フィリピン	青少年活動
6	宮崎県国際協力推進員	北　園　さつ紀	東アフリカ･タンザニア	エイズ対策
7	熊本県国際協力推進員	大　野　章　子	中央アメリカ･コスタリカ	美　　術
8	鹿児島県国際協力推進員	福　永　みゆき	南米・ブラジル	日系日本語学校教師
9	（特活）九州海外協力協会	米　村　淳　平	大洋州･ミクロネシア連邦	小学校教育
10	（特活）九州海外協力協会	古　泉　志　保	東アフリカ･エチオピア	コミュニティ開発

3. 添 付 資 料

高校生国際協力実体験プログラム募集要項

世界・仲間・自分、発見

九州各地の高校生たちと世界を感じる3日間!

「JICA九州 高校生国際協力実体験プログラム」は九州各県から集まった仲間が2泊3日を共にし、世界と自分とのつながりを体感する、高校生のための国際協力入門講座です。

■事前に知っておこう!

JICA(ジャイカ)とは?

JICA(国際協力機構)は、日本政府の開発途上国へのODA(政府開発援助)を行う組織です。

青年海外協力隊って?

JICAが実施する海外ボランティア派遣制度です。開発途上国で現地の人たちと生活を共にし、貧困や環境など、その国の抱える課題に取り組みます。

JICA九州とは?

JICAの九州における国際協力の拠点です。開発途上国から日本の技術を学びに来た人たちのための研修施設もあります。

■プログラムスタート

事前学習
(各校にて実施します)

「国際協力」ってなんだろう?

「実体験プログラム」への参加前に、各地の国際協力推進員と一緒に国際協力について考えてみよう。

DAY 1 多様な文化に触れる

九州各地から集まった仲間たちとアフリカのスポーツで親睦を深め、日本に研修に来ている開発途上国の人たちとの交流や世界の料理を楽しもう!

Time Table

13:30	開場
14:00	開会式・オリエンテーション
14:30	自己紹介
15:40	アフリカのスポーツ体験
17:50	国際交流パーティ
20:00	終了予定

DAY 2 青年海外協力隊にな

青年海外協力隊になりきって、自分に何ができるか考えてみよう。現地の人たちに本当に必要とされる支援って何だろう?

Time Table

08:50	朝のつどい
09:20	青年海外協力隊体験談
11:00	国際理解ワークショップ
12:30	昼食
13:30	青年海外協力隊活動計画作り
18:30	終了予定

出会いはここから!

伝わるかなぁ、ドキドキ!

村人の意見を聞きに行く!

JICAボランティア経験者である各デスクの国際協力推進員たちが、プログラム全体をサポートします。

JICAデスク 北九州
(公財)北九州国際交流協会内
TEL093-643-5931
jicadpd-desk-kitakyushushi@jica.go.jp

JICAデスク 長崎
(公財)長崎県国際交流協会内
TEL095-823-3931
jicadpd-desk-nagasakiken@jica.go.jp

JICAデスク 福岡
(公財)福岡よかトピア国際交流財団内
TEL092-733-5638
jicadpd-desk-fukuokashi@jica.go.jp

JICAデスク 佐賀
(公財)佐賀県国際交流協会内
TEL0952-25-7921
jicadpd-desk-saga-ken@jica.go.jp

DAY 3

る 体験を振り返る

仲間と作りあげた青年海外協力隊活動計画を発表し、3日間を通した自分の変化や成長を振り返り、これからに活かそう!

Time Table

08:50	グループによる成果発表
11:10	振り返り
12:30	閉会

自分たちの考えを伝えよう!

んなでとことん考える!

事後学習

(各校にて実施します)

自分の変化を伝えよう!

「実体験プログラム」で感じたこと、考えたことを表現し、周りの人に伝えよう。

自分への手紙

昨年の参加者が自分宛に書いた手紙です。

最初は、どうなるのかなと思っていましたが、
昨日、出会ったばかりの人達とも
協力してとても良い思い出になりました。
それに、国際交流パーティーで色んな
国のご飯を食べ、食文化にふれてみて、
文化の違いや食べ方の違いなども
わかり、貴重な体験をすることが
できました。今回のプログラムは、
すべてのプログラム全部が私にとって
心に残るものとなりました。
本当に充実した3日間でした。

たった3日で何が変わるんだ!って思ってたけど
すごい大切なこと教えてもらったわ。
自分の勝手な先入観だけで この国は貧しい!
幸せじゃない!って決めつけてたけど、自分が
住んでるこの日本○が絶対幸福ではない
事も多くあったわ。
うらやましい~って何回も思ったしね。
だから 何でも決めつけないで、
型にはまらない自分でいて下さいね。

JICAデスク 大分
(公財)おおいた国際交流プラザ内
TEL097-533-4021
jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp

JICAデスク 熊本
(一財)熊本市国際交流会館内
TEL096-359-2130
jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp

JICAデスク 宮崎
(公財)宮崎県国際交流協会内
TEL0985-32-8457
jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

JICAデスク 鹿児島
(公財)鹿児島県国際交流協会内
TEL099-221-6624
jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

※プログラムは変更される場合があります。

JICA 九州

高校生国際協力 実体験プログラム

グローバルな人材を育てる参加型の「学び」

昨年度参加校実績

福岡県　国立北九州工業高等専門学校・県立福築志耕館高等学校
　　県立小倉工業高等学校・私立福岡工業大学付属城東高等学校
佐賀県　県立神埼清明高等学校・県立白石高等学校
長崎県　県立川棚高等学校・県立佐世保商業高等学校
熊本県　県立東稜高等学校・県立熊本北高等学校
大分県　私立大分東明高等学校
宮崎県　県立宮崎大宮高等学校・私立宮崎学園高等学校
鹿児島県　県立志布志高等学校・県立川辺高等学校・県立出水高等学校
　　県立明陽館高等学校・県立加治木工業高等学校・私立鹿屋高等学校

［国際理解］ 世界の状況や国際協力の現状に気づき理解を深める。

［交　　流］ 他校からの参加者や青年海外協力隊経験者、外国人との交流を通し、様々な価値観に触れる。

［進路・生き方］ 自分を見つめ直し、世界の中でどう生きるのか考えることで、将来の進路選択に役立てる。

日　程

第1回 2015年7月29日(水)～31日(金)2泊3日
第2回 2015年8月19日(水)～21日(金)2泊3日

プログラムの流れ

事前学習	7月に国際協力推進員が各校を訪問し事前学習を実施します。日程など詳細については、各地の国際協力推進員にご相談ください。
本プログラム	第1回、第2回のいずれかの日程にご参加ください。
事後学習	例年の参加校はプログラム終了後、学校行事や各地の国際交流・国際協力イベントなどで、本プログラムの成果を発表しています。また、参加した経験を活かした「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」への応募も推奨しています。詳細は各地の国際協力推進員にご相談ください。

会　場

独立行政法人
国際協力機構 九州国際センター(JICA九州)

福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1（JR鹿児島本線八幡駅下車徒歩12分）
TEL093-671-6311（代表）　www.jica.go.jp/kyushu

参加条件

- 国際理解教育・持続可能な開発のための教育（ESD）・キャリア教育に積極的に取り組んでいる学校、又は今後取り組む意欲がある学校。
- 学校長より参加の許可が得られること。
- 生徒の保護者から参加への同意が得られること。
- 生徒が過去に本プログラムに参加していないこと。
- 教員・生徒とも、事前・事後学習を含み、全プログラムに参加可能なこと。

募集数

- 九州7県から16～20校

※1校につき、生徒3～4名（＋教員1名）での参加を基本とします。参加希望校が定数を超えた場合は、応募書類、県のバランス等を考慮して選考します。

- 最少開催人数:20名

留意事項

- 昼食および夕食代は各自でご負担ください。
  なお、1日目の「国際交流パーティ」会費として、おひとり1,000円を徴収します。
- 学校所在地からJICA九州までの往復交通費、宿泊費はJICA九州が負担します。
- お車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- プログラムへの参加にあたり、JICA九州負担にて参加者全員、国内旅行傷害保険にご加入いただきます。
  万一事故が生じた場合、保険の給付範囲内で補償いたします。
- 宿泊はJICA九州宿泊棟となります。
- 動きやすい衣服での参加をお願いします。
- 個人都合（部活等）によるキャンセルはご遠慮ください。
- ジャージ、運動靴、筆記用具、健康保険証の写し、および緊急時の連絡先をご持参ください。

応募方法　参加申込書をJICA九州ホームページよりダウンロードし、必要事項をご記入の上、以下の送付先まで郵送ください。(URL:www.jica.go.jp/kyushu)

送 付 先　〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館2階 AB号室
（特活）九州海外協力協会

応募締切　**2015年6月10日(水)［必着］**

●応募に関する問合せ先（特活）九州海外協力協会 **TEL092-415-6536**

（学校用）

JICA 九州高校生国際協力実体験プログラム参加申込書

参加希望日程	第1回 7/29～7/31	第2回 8/19～8/21	どちらでも参加可
ふりがな			
高等学校名	立		高等学校
学校住所	〒		
	TEL	FAX	

指導教師	ふりがな		担当教科		性別	男 女	
	氏名						
	現住所	〒					
		TEL		FAX			
		E-Mail		携帯			
生徒1	ふりがな		TEL				
	氏名		学年	年生	性別	男/女	
	現住所	〒					
生徒2	ふりがな		TEL				
	氏名		学年	年生	性別	男/女	
	現住所	〒					
生徒3	ふりがな		TEL				
	氏名		学年	年生	性別	男/女	
	現住所	〒					
生徒4	ふりがな		TEL				
	氏名		学年	年生	性別	男/女	
	現住所	〒					

学校所在地から JICA 九州までの交通経路	（バスを使用される場合は、運賃と会社名をご記入ください） 学校→ →JICA 九州

※公共交通機関をご利用ください

上記の者が、JICA 九州の「高校生国際協力実体験プログラム」に参加することを承認します。			
高等学校名		日時	2015 年　月　日
学校長			印

【個人情報の取り扱いについて】
参加のお申し込みについて入手しました個人情報は、本プログラム実施に係る業務のみに使用いたします。また、当該情報は当機構にて厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

送付先：〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-10-34　M ビル 3 号館 2 階 AB 号室
（特活）九州海外協力協会

（教師用１）

参加申込書

独立行政法人　国際協力機構

九州国際センター　所長　殿

独立行政法人国際協力機構　九州国際センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。なお、旅費については下記の口座にお振込願います。

年　　月　　日

氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

生年月日：　　年　　月　　日　年齢：　　歳

振込口座

銀行名		**支店名**	
口座番号	普通・当座		
ふりがな			
名義人			

（教師用２）

＊次の質問にお答えください。スペースが足りない場合は別紙に記載してください。

(1) 本プログラムへの参加動機を教えてください。

(2)これまでの国際理解教育／開発教育に関する取り組み実績（個人の取り組み）／学校全体での取り組みがあれば記載してください。

(3)プログラムに参加された後、どのような取り組みを検討されているか記載してください。

（生徒保護者用）

参加申込書

独立行政法人　国際協力機構

九州国際センター　所長　殿

独立行政法人国際協力機構　九州国際センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。

年　　月　　日

申込者氏名　　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

生年月日　　：＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日　年齢：＿＿＿＿歳

親権者または

保護者名　　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

本人との続柄　　：＿＿＿＿＿＿＿＿

【参加にあたり心配事がある方はご記入ください（健康面、アレルギー等）】

※選考には影響ありません

（生徒用）

参加生徒の皆さんへ

＊３つの質問にお答えください。

(1)あなたがプログラムへ参加しようと思ったきっかけを自由に書いてください。
(2)あなたの知っている開発途上国や国際協力のこと、もしくはあなた自身が関わっている活動などがあればその活動について、自由に書いてください。
(3)あなたがこのプログラムに期待すること、将来の夢、自己 PR など、自由に書いて下さい。

申込者氏名： _____

2015 年度　第 1 回目　JICA 国際協力実体験プログラムアンケート

1 日目（生徒用）

[自己紹介・アイスブレイキング]

□ 満足度

（人）

満　足	27
やや満足	11
やや不満	1
不　満	0
無回答	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- 初めは緊張していましたが、みんなのことを知っていくうちにドキドキよりもワクワクが大きくなりました。これからの 3 日間が本当に楽しみになりました！
- 部屋の四隅というゲームでは初めて出会った友達と打ち解けることができました。また言葉を話さずに誕生日の順に並ぶ遊びでは、改めて言葉を話すことの重要さを感じることができました。
- 学校紹介の時にみんなのを聞いていてそれぞれの学校で色んな取り組みをしているのを知れて良かったです。また学校の友達以外知らない人ばっかりだったけど、たくさん話しかけたり話しかけられたりして、嬉しかったし楽しかったです。
- 1 分間で自校のことを発表するのがどこの高校もうまくてびっくりした。初めは少し緊張していたけれど、「目を見て笑顔で」を心がけた。しかし、みんな笑顔で接してくれたのでとても嬉しかったし、なじむのが早かったと思う。
- 個性的なスタッフや先生達のおかげで楽しく打ち解けられた。
- 自分の思うように発表ができませんでした。それがすごく心残りです。

[クバーラ]

□ 満足度

（人）

満　足	39
やや満足	0
やや不満	0
不　満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- 最初はルール通りに進めるのが難しいなと思ったけど、慣れてくるとなかなか奥深いなと思った。チームで作戦を考えたり、実際にクバーラをしたりする中でチームの仲が深まったと思う。学校でも、クバーラを広めてやりたいと思った。

・ とてもおもしろいし、道具が何もいらないというのが、気楽に遊べていいと感じました。
・ 説明の際に、実際にスポーツをしているアフリカの子ども達の映像を見ることで、とても分かりやすく、きちんと理解することができました。体験してみると、攻めと守りの二つのパターンがあることが分かり、クバーラのルールをふまえた上で、班のみんなと作戦を考えることができたのでとても楽しかったです。
・ 最初にグループに分かれて自己紹介をしたときはみんな少し固まりぎみで、会話もそんなに発展しなかったが、ゲームの作戦を考えたり、応援し合っているうちに会話や笑顔が増えていった。クバーラというチームの団結力を高めるスポーツによってみんなの距離がぐんと縮まった気がした。
・ 最初に見たクバーラの大会の映像を見て、あのビデオの中の子ども達のような笑顔を作ることのできる活動を自分もしたいと思いました。

[国際交流パーティ]

□ 満足度

（人）

満　足	32
やや満足	5
やや不満	2
不　満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ 同じ英語でも、少しなまりのある英語が多く、私の班にはエチオピアとマラウィの人が来ていましたが、少し聞きとれなかったりしました。しかし、お互いが分かりやすく言おう！ 伝えよう！としていてすごく楽しかったし、別れるときは名残惜しかったです。
・ 自分から積極的に話せてよかったし、自分の下手な英語でも伝わってよかったし、エチオピアの人だったけど、私はあまりエチオピアのことを知らなかったので、少し知る事ができて国際的な視野が広がってよかったです。
・ 外国の方々との交流、今までに食べたことのない味に正直戸惑いを隠せませんでした。
・ 私はあまり英語が得意じゃないから、ちゃんと会話できるのか心配していました。でもみんなで「これを説明するには何て言えばいいんだろう？」などと考えて助け合いながら工夫して話すことができたので良かったです。
・ まず、私は今までイスラム教徒の方に出会ったことがなかったので、今回生まれて初めてイスラム教徒の方に出会えてとても嬉しかった！日本ではない他の国の食文化を日本語ではなく英語を通じて学ぶことができてとても刺激的だった。
・ タンザニアの方とお話することができました。その方と話していて感じたのは、喋る雰囲気や考え方など、今まで生活してきて初めてのものばかりで普段自分がコミュニケーションをとる相手がいかに身近で狭い間柄であったかを実感しました。
・ 英語で話しているのは聞き取れるけど自分から色々聞いたり話したりすることができ

なかったのが悔しい。でもこれで自分の弱点が分かったのでもっと話す練習をしていこうと思った！

・ 外国の方々とたくさん話そうと意気込んでいたものの、結局相槌を打つだけになってしまい、少し悔いが残っています。

□ **今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったことなど、1日目を振り返って自由に書いて下さい。**

・ 英語の力をつけるだけではなく、他の国の文化、習慣をもっと知り将来に活かそうと思い参加したプログラム。積極的になれたりなれなかったりして反省が少し多い１日目でした。明日は、自分の恥を捨て、良い意味でばかになり、少しでもたくさんの外国の方と間違えてもコミュニケーションをとりたいです。

・ 最初はどんな人が何人来るかとか全然分からなくて、どっちかというと不安が大きかったけど、顔を合わせたり動いたりしているうちに少しずつ打ち解けてきて、県外の人とも友達になれたのが嬉しかった。国際交流パーティでは、外国の方と話すだけではなく、実際にいろんな国の料理が食べられて良い経験になった。次に外国の方とお話しするときは、もっと自分から積極的に会話ができるようになっておこうと思った。明日はいよいよ青年海外協力隊に近づいた取り組みができるので、自分にとって良い経験になるように楽しんで取り組みたい。

・ イスラム教の人々など食べられる食品､食べられない食品があってそれを示すマーク、ハラルマークなどがあることを初めて知りました。

・ 外国の方と本当に喋れるのか不安だったのですが、なんとかコミュニケーションをとることができて、日本に住んでいる私とタンザニアの方をつないでくれた英語はとても大事だなと思いました。

・ クバーラをスポーツ化することによってマダガスカルの子ども達の団結力を育てたり､まとまるようなきっかけを作ったりした青年海外協力隊の人はすごいなと思った。

・ 研修員との交流は自分にとって本当に刺激的であり、一生忘れられない思い出となった！今度は自分から会いに行けるように頑張りたいと思った！

・ この JICA 九州には、黒人系の人しかいないと思っていたけど、ロビーで白人系の人を見かけて、そうではないんだなと思いました。自分の中でこのような偏見や先入観があったのが情けなく思います。

２日目（生徒用）

[朝のつどい・アイスブレイク]

□ **満足度**

（人）

満　足	34
やや満足	5
やや不満	0
不　満	0

□ **感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述**

- ナマステ体操は初めてだったけど、途中から体操じゃなくてダンスになっていて、すごく楽しかった！ 朝からたくさん笑うことができた。
- 体操が朝の緊張をほぐすのにちょうど良かったです！
- ラジオ体操に似た運動が他の国にもあると知り、これ以外にも他の国のものもしてみたいと感じました。
- 2 日目の朝はなんとなくまだ疲れが完璧には取れていなくてあまり元気ではなかったけど、ナマステ体操がおもしろくて少し元気になりました。

[国際理解ワークショップ（貿易ゲーム）]

□ 満足度

（人）

満　足	34
やや満足	5
やや不満	0
不　満	0

□ **感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述**

- みんなそれぞれスタートが違って、資源が多いチームは、簡単に分けてあげすぎると逆に資源不足になってしまうこともあって、よく考えて交渉することが大切だと思いました。
- とても単純なものを作って行うゲームだったのに、ゲーム中は様々なことを考えさせられました。このゲームをすることで、開発途上国などが今どんな状況にあるのかが今までより分かった気がします。
- 与えられたものは紙、新しいえんぴつ、こわれたはさみというほとんど使えないような道具だった。最初はこれだけでどうやって作ればいいのか全然思いつかなかったけど、色々な方法を話して解決することができた。貧しい国がなかなか減らない理由が分かったような気がする。
- 普段生活をしていると気づかないことや、どんなふうに輸出入をしているのか、利益を得るためにはどうしたらいいのかということがあった。国によって税関みたいなところが厳しかったり、逆にやさしかったりして、リアル感があった。

・ この活動を通して、貧富の差を感じました。資源のある国、ない国。ゲームだったから、無償で貸してくれたり、交換をすぐすることができたけど、海や山を越えた国を考えると難しすぎることだと思いました。
・ 初めてこのようなゲームをして、簡単そうに見えても奥が深いと感じた。人間の心理や欲がよくわかったし、自分を見つめ直すきっかけになった。このような条件がそろうと争いが起こるのかということが少し分かった気がした。
・ 資源があっても道具がないと何もできないと思った。

[青年海外協力隊体験談]

□ 満足度

（人）

満　足	28
やや満足	10
やや不満	0
不　満	0
無回答	1

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ 任地に行った話で苦労した事、嬉しかった事などその場にいないと伝わらない感動を話してもらい、いい経験になった。
・ 実際に行った方々の体験を聞いて、知らない土地、言語で２年間過ごすことはとても大変だろうなと思いました。
・ 青年海外協力隊は自分の技術を伝える仕事だから、やっぱり何か技術を身につけなければいけないと思った。
・ お二人とも、全然知らない言葉を話す地域に行かれたということに驚き、すごいなと思った。それでも、話や写真によれば楽しかったということで活動にますます興味を持った。
・ 辛い事があるにしても、経験したいと強く思った。自分を変える必要性や大切さを学ぶことができた。
・ 元々青年海外協力隊にとても興味があったので２カ国も聞く機会がありよかったです。行った国やした職種などに加えて、私が聞いていて１番印象に残った言葉は「現地のものを使って」という言葉です。現地でできること、協力隊の人がいなくなっても続けられること、これは大事だなと思いました。
・ 言葉の壁を越えて、相手の言葉を一生懸命に理解しようとして、相手のために行動することはとても素敵なことだと思いました。また、その国の日本にない良さも知ることができて良かったです。
・ この体験談で職種の多さを初めて知り、とても驚きました。また、お二人が派遣された国にはそれぞれで貧富の差があり、特にフィリピンの高層ビルと貧しい地域が一緒に写った写真が印象的でした。

[青年海外協力隊活動計画作り]

□ **満足度**

（人）

満　足	26
やや満足	9
やや不満	0
不　満	0
無回答	4

□ **感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述**

- バリボ村について､劇を見たり話を聞いたりして､自分が本当に青年海外協力隊になっているかのように感じました。
- 班内の団結を強めることができました。すごく深いところまで話し合って、日ごろの授業ではできないようなことができました。昨日会ったばかりなのにこんなにも打ち解けている自分に驚きです。
- 村の人々に話を聞いているうちに、私は自分の考えや価値観、視野がまだ日本人としてからしか持てていないことに気づかされ、驚いた。相手の人達のことを考えて支援計画を大まかに立てたが､根本的な考えが異なるので計画を立てるのはとても困った。
- 一回班で決まったことも村人たちの意見で変わってしまったり、実現できなかったりして、それを解決するのが少し難しいなと思った。
- 話を聞きに行く事で、村の人が本当に望んでいるものが何なのかを知れたし、問題を解決するため、よく話して、情報を集めることが大切なんだなと思いました。
- この活動は、すごく難しいものとなりました。バリボ村は自然はすごいけどお金がなくて何もできない。このことは、世界中にすごくあると思います。その中で、自分達の知恵をどれだけ出せるかということですごく悩みました。
- 班のみんな、それぞれ違った意見を持っていて、聞いていてとても面白い意見が多く挙げられていたので、楽しかったです。特に班の中心となって多く意見を出していた子もいたのですごいなと思いました。

□ **今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったことなど、2日目を振り返って自由に書いて下さい。**

- 今回の活動では、国際関係や青年海外協力隊の活動を、今までよりもすごく身近に感じることができた。今日の活動は色々な事を考えさせられて、壁にぶつかることがたくさんあったけど、でも今まで以上に国際協力や青年海外協力隊に興味がわいたし、自分もなりたいという気持ちが強くなった。今日の経験や感じた事を学校に持ち帰ってたくさんの人に伝えたいと思った。
- 自分の知識のなさに改めて気づかされました。２日間を通して、私も世界に貢献できるような人になりたいと思いました。
- 富、力がある人は、なぜ何もしていないのか。私は日本からボランティアとして行く

のも大切ですが、やはり国としてよくしていくために協力隊は、そんな富のある人にも指導をするのも大切かなと感じました。

- 自分にできることは何かをよく考えた一日になった。活動を通して工夫をすればいろいろなことができるということが分かった。しかししたいことがあっても思い通りできないことに気づいたりもして、改めて難しいことだと感じた。
- ワークショップでは、自分達が裕福な国であることにも気づかず、当たり前だと思って生産していた。これは今の日本人にも当てはまるのではないかと思った。
- 村の住民や推進員の方々に質問に行くときは、きちんと聞きたい事をまとめてから行けばよかったなと思いました。

３日目（生徒用）

[青年海外協力隊活動計画発表]

□ 満足度

（人）

満　足	33
やや満足	6
やや不満	0
不　満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- 3日間、学んだ事の総まとめとしてしっかり発表することができたと思います。他の班の内容は同じ情報量なはずなのに、全然違っていて、とても驚きました。
- 最優秀！ すごく嬉しかったです。みんなで夜遅くまでずっと考えて、朝も早く起きて集まってやったりして努力が報われました。
- 自分達の班は、なかなか意見がまとまらなくて発表がすごく不安だったけど、みんなで協力して何とか発表をすることができた。自分達が頑張って考えたことが形になるのは嬉しかったし、他の班の発表も斬新なものばかりで参考になった。国際協力についてこんなに深く身近に考えたことはなかったので、良い経験になった。
- この半日間ずっとこの班でやってきて、ようやく計画がまとまったなと達成感がわいてきました。どの班も本当にすばらしくて、実際に現地でやってほしいと強く思いました。

□ 3日間を通して、このプログラム全体の満足度は＿＿＿＿パーセント（%）

（人）

100%以上	28
90-99%	8
80-89%	2
79%以下	1
記載なし	0

満足度の理由

【100%以上】

- どの取り組みでも学ぶことがあり、たくさんの知識を吸収することができたからです。自分の常識が通用しないことを特に学べました。また、参加する前発展途上国といわれても貧困などしかイメージできなかったけど、今はよさもイメージできます。(100%)
- 私が普段何気なく過ごしていた日々と同時に困っている人もいるんだなと思ったし、自分のできることをやっていきたいと思いました。(100%)
- 今回様々なプログラムを通して１番思っていることがあって、それは自分の意見を言うことがとても大切で、伝えないと他の人には分からないということです。だからこの３日間のプログラムで意見を言えるようになってよかったです。(100%)
- ほとんどが自分には新しくてキラキラしていて、知らない事ばかりだったので、これからもいろいろ考えていかなければならないという思いに変わりました。(100%)
- 自分がずっと知りたかった青年海外協力隊についての生の声を聞くことができたから。このプログラムがなければ知る事ができなかったし、新しい友達とも出会うことができなかった。(100%)
- プログラムをしていく中で、困難にぶちあたることがたくさんあったけど、このプログラムに参加していなければ絶対に味わえなかった気持ちだし、さらに国際協力に貢献してみたいという気持ちが強くなった。(100%)
- 青年海外協力隊って何だろう？と思っていた初日、最終日の今日はその疑問が解決していました。３日間でも考え方を変えることができることを知り、とても充実した研修でした。(100%)

【90-99%】

- 自分が一番不安に思っていた「沢山の人と喋る」ということはしっかりとできたのでそこは良かったです。最後の２％はもっと活動に積極的にできたかなと思いました。(98%)
- なぜ5% 減っているかというと、初めは乗り気じゃなかったからです。堅苦しい感じがして、自分には合っていないと思っていたからです。でも実際はめちゃくちゃ楽しくて、何であんなに嫌がっていたのか分からないくらいです。(95%)
- 実際に外国の方と会ってみて、全然理解できなかったのがすごく悔しかったです。(90%)

【80-89%】

- 企画の一つ一つが初めてすることで、緊張したりもしたけどみんなで楽しく活動したり、新しく知る事ができたのは良かったが、もっと積極的になれればなと思うことがあった。(80%)
- 最後の発表が心残りだった。でも、様々なプログラムでいい勉強になった。できたら、もう少し他のプログラムも研修員の人達と一緒にしたかった。(80%)

□ **一番印象に残ったプログラムは何ですか。その理由を記入してください。**

（人）＊一部複数回答あり

青年海外協力隊活動計画作り	12
国際交流パーティ	10
ワークショップ（貿易ゲーム）	8
クバーラ	7
活動計画発表	3

[青年海外協力隊活動計画作り]

- 開発途上国の現状を見て、課題がとても多いことが分かり、自分がいかに恵まれているか改めて感じることができ、課題の解決方法を班でしっかり考えることができたから。
- 今まで、こんなに心の底から楽しみながら発展途上国について考えることができたのは初めてで、とても印象に残りました。
- みんなの意見１つ１つがすごく印象的で自分には思いつかないおもしろいアイデアや、なるほど！と納得するアイデアがあってとても楽しかった。
- １番大変だったから。あんな体験はもう二度とできないかもしれないし、本当に大変だったけど力になりました。
- このプログラムを通して、世界の色々な問題を改めて考えるいい機会になりました。解決策を考えることで、今自分にできることを再認識することができた。
- 本当に多くの問題があってすべてが絡み合っている中解決していくのは本当に答えがないのだと分かったし、班の中での絆ができて、少しだけ良い案が出せて嬉しかったから。

[国際交流パーティ]

- 英語がちゃんと喋れなくても、ジェスチャーや絵でどうにかすれば思っていることは伝えられるんだなと感じたから。
- 外国人と話したのが初めてだったから。
- いつも触れ合う事のできないアフリカ系の人々とおしゃべりできたし、触れ合えたことが１番の思い出です。宗教の違いも日本ではあまり感じないけどスーダンとかは厳しそうで、私だったら断食とか考えられないけどすごいなと思いました。
- 様々な国の料理を食べられたし、現地の人の話も聞けてさらに美味しく感じた。
- 英語を話す力や聞く力がまだまだ身についていなかったことを実感できたから。
- 英語で研修員の方とたくさん交流することができ、自分の思っていることや夢を片言ではあったが伝えることができてとても嬉しかったから。

[国際理解ワークショップ（貿易ゲーム)]

- 実際にゲームのような感じで体験して、貧富の差が身にしみて感じました。ゲームのように簡単にはできない。その分､優しい国とのきょうりょくにとても感謝しました。
- 世界の貿易の事情とか、仕組みが簡単に理解できたし面白かったです。
- 人間の心理や国家の動きが分かりやすくて戦争が起こるメカニズムがわかった。

［クバーラ］

- まだ、このチームで仲良くなれるのかなあと不安になっていたけど、この体験のおかげで打ち解けて、とても仲良くなることが出来たからです。
- 初めて会った人とたくさん作戦を練ってどうやったら勝てるのか話すのが楽しかったです。
- 地元に戻って、友達とかきょうだいに教えようと思いました。
- 全く新しい遊びで、他国の文化を身をもって体験することができ、とても楽しめました。

［活動計画発表］

- 自分の考えをさらに深めることができ、色々な考えに気づくことができたから。

□ **最後に何か書きたいこと、伝えたいことなどがあれば自由に書いて下さい。**

- このプログラムが成功するために、目に見えるところ、見えないところで私たちを支えてくださった全ての方に感謝してます。本当にありがとうございました。
- この３日間で JICA や国際交流を身近に感じるようになりました。今まではまじめなすごく頭のいい人ばかりだと思っていました。参加してみるとみんな優秀な人ばかりだったけど、面白くて優しくて自分にもできることは沢山あって工夫すれば何でもできるんだと分かりました。
- 私は単純に海外が好きだったけど国際協力にはあまり興味がなかったんですが今回とても興味を持ちました！
- このプログラムで JICA の人達のような人の役に立つ仕事をしたいと思いました。
- 私は将来、海外での街づくりや都市づくりをすることに興味があるのですが、ここで学んだ事がすごく活かせるなと思いました。その国の人とのコミュニケーションの大切さやその国の文化を理解する事の重大さに気付けたので、もし海外で仕事をすることがあればこのことを忘れずにいようと思います。
- 今回学んだ事をできるだけ多くの人に伝え、世界がどのような状況なのか、自分達ができることは何か、何をすべきなのかを地域全体で考えられるようになったらいいなと思った。
- 次は本当の青年海外協力隊として JICA に戻ってきたいです。
- このプログラムを通して１番感じたのは、幸せというのは不思議なものだなと思いました。私たちの不自由ない生活が本当の幸せって言えるのかなと思ったし、バリボ村のような国でも客観的に見れば幸せじゃないのかもしれないけど私たちの暮らし以上に幸せを感じているのかもなと思いました。世界中の人の心が温かくなればいいなと思いました。
- 私は教師になりたいなと思っていたのですがこの３日間、色々な方の話を聞き、海外で誰かの役に立てる仕事に就きたいなと思い直しました。

2015 年度　第 2 回目　JICA 国際協力実体験プログラムアンケート

1 日目（生徒用）

[自己紹介・アイスブレイキング]

□ 満足度

（人）

満　足	25
やや満足	10
やや不満	0
不　満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- 一分という短い時間だったので、もっと話が聞きたかった。ゲームは皆緊張していたせいか、あまりコミュニケーションがなかった。
- 一分間で話すことができず､また初めて会う人が多かったので､とても緊張してしまった。
- 学校紹介では他県の学校の特徴や自分の県にはない学科など新しい発見があってとても良かった。アイスブレイキングの四隅質問や誕生日で並びかえでは体を動かしながら、お互いの距離を少しずつ縮めれたと思う。
- 大声を出すことでもっと自己アピールする事で第一印象がガラッと変わると思った。
- 最初はすぐに同じ学校の友達の所に逃げてしまう自分がいて、もっと積極的にグループの人と関われるように頑張らないとと思った。
- 初めは不安や心配でたまらなかったけど、ゲームを通して仲良くなれたと思う。
- １人ずつ名前を言ってもなかなか覚えられなかった。

[クバーラ]

□ 満足度

（人）

満　足	32
やや満足	1
やや不満	0
不　満	1

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- 道具がなくても楽しく遊べて面白かった。
- 初めて体験したけど楽しかった。
- チームワークの大切さを学ぶことができた。
- 簡単そうだったが、意外と難しかった。
- 自分立ちのチームで作戦を考え、言葉を掛け合う事の大切さ、チームワーク戦略を考える時間に、チームで話し合いをして、人の考えを聞くいい機会となった。

・ 説明を聞いただけだとあまり面白そうじゃなかったが、実際にやってみるととても熱中した。
・ ゲームでは夢中になり、反則したりタッチされることがとても多かったが本当に楽しかった。
・ 先生チームに勝ちたかったけど、勝てなかったから不満です！

[国際交流パーティ]

□ 満足度

（人）

満　足	31
やや満足	2
やや不満	1
不　満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ 言葉が通じない中でどのようにして思っている事を伝えるかという事に苦戦した。英語でも伝わらなくてその国の事を聞きたかったけどあまり聞けなかった。
・ スペイン語は分からないし相手の方は英語が話せなかったので、とても難しかった。しかし料理のお話や音楽で一つになれて嬉しかった。
・ 写真を見てどこの国の料理か当てるのは少し難しかったが異なった文化を知る事ができ、とても楽しかった
・ 食事の後の全員での踊りはとても盛り上がって楽しかった
・ 初めて生で聞くスペイン語はとても新鮮だった。ジェスチャーや絵を使って伝える事の大変さが分かった
・ 言葉は通じなくても心は通じ合えた気がして素敵な時間を過ごすことができた。
・ 外国の友達が増えたらもっと楽しいだろうなと思った。
・ グループでの話し合いや研修員でのインタビューなど積極的に参加できたと思う。ドミニカは今まで位置も知らず、島国であることすら知らなかったが、たくさん話を聞いて、自分の知らなかった世界を発見できたような気がする。お別れが名残惜しいほどだった。

□ 今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったことなど、1日目を振り返って自由に書いて下さい。

・ 言葉が通じるなら、もっと研修生の方と交流したかった。でも夕食のときに曲が流れると研修生の皆さんはノリが良くて、踊ったりしてとても楽しかった。自分の気持ちを伝えるのにとても苦戦したけど最後は曲とダンスで心が通じ合えてよかった。
・ 新幹線に乗ったり電車に乗ったりしてここまで来るのに大変だったし、何より体育館に行くまで不安ばかりだったけど、自己紹介とかをして行くうちに不安や緊張なんてなくなっていったし、とてもとても楽しめた。言葉も大切だと思ったけれど、一番は

相手を理解しようとする力なんだな、と思った。

- 国際交流パーティの前の食べ物で国を当てるゲームでは自分の班の国もそうだけど、日本と大きく食文化が違う国が多いことがよく分かった。あと、他の班の発表を聞いて「あ～！ こういうことから国を導く手がかりになるんだな」と思う場面が多くあった。私もそんな風に広い視野を持った人になりたい。
- このプログラムに参加する前に『誰よりも多くのことを学んで、誰よりも楽しむ！充実した3日間は自分が作る！』という目標を立てたのだが、今日の私は全て受身で、「自分から！」って姿勢がまだまだ足りなかったように思う。明日はグループで自分達で進めていく作業が多いので、ガツガツくらいつくくらいの気持ちでのぞめるように頑張りたい。あと、今日の交流パーティでいかに自分の世界が狭かったかを思い知らされた気がする。研修員の何人かが「音楽という共通言語が私達をつなげてくれた」と言ってたけれど、それくらいみんなで心から楽しんで踊ったあの時間は本当に最高だった。
- 私は1年生で周りは2, 3年生ばかりだったので、英語や他の活動についていけるか、心配だった。研修生の方と話すのは少し緊張した。言語が違うだけで、コミュニケーションをとるのは本当に難しいと思った。これからもっと英語を勉強したいと思ったのはもちろんのこと、私は音楽が好きなので、「世界共通の言語」である音楽で、いろんな国について知っていきたい。料理も日本の味と違って新鮮だった。ますます、他の国の事を知りたい、行ってみたいと思った。

2日目（生徒用）

[朝のつどい（アイスブレイク）]

□ 満足度

（人）

満　足	29
やや満足	6
やや不満	0
不　満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- 動作が複雑で難しかった。
- 最後らへんは体操というよりもダンスだった。
- 動きが結構激しくて疲れた。
- ネパールはさすが仏教の国！という動きがあってすごかった。
- 踊って文化を知れたので良かった。
- 日本人から見ると面白おかしく思えるが、ネパールの人達にとって普通の事で、ネパール人から見たら日本のラジオ体操が面白く見えるかも知れないと思った。
- 何言ってるか分からないので、次どのような動きかを推測できなかった。

・ 意外にハードな動きもあり、目覚めにとても良い体操だった。とても面白かったので学校の友達にも広めてみたいと思った。
・ 予想外の動きばかりで笑いが止まらなかった。
・ 初めてする動きと言葉に戸惑ったけど、みんなですると楽しかった。
・ 集合するのが遅く、気持ちが切り替えられず、周りに申し訳なかった。

[国際理解ワークショップ（貿易ゲーム）]

□ 満足度

（人）

満　足	34
やや満足	0
やや不満	0
不　満	0
無回答	1

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ ゲームを通して、国の違いや貿易、貧困の差を知る事ができたし、貿易のしくみが理解できた。
・ 簡単に貧富の差を感じることができていい経験になった。
・ なかなか道具を借りれなかった。
・ 資源があってもそれを加工する技術や道具がなければ､お金にすることもできないし、貿易をするのも難しいと感じた。発展途上国を変えていくには、先進国の力が必要なのかも知れないと思った。
・ 周りと力を合わせてどうすればよいか考えるいい機会となった。
・ 貧富の差はあっても国同士で協力する事が大切だと思った。
・ 私達の国は豊かで他の国から多くの交渉をされたが、自国最優先で応えれなかった。
・ 貧富の差や情報の伝達の有り無しがある中で､試されるのは交渉力や知恵を振り絞り、いかに自分と相手にとって、良い方向に持っていけるかを考える事だと思った。
・ 世界には資源・経済力がある国、資源はあるけど技術・工場のない国などさまざまな国があり、国によって置かれている状況はさまざまだということに対して理解を深めることができたと思う。
・ 貧しい国でも幸せな国もあって、いろんな形があるんだなあと思った。
・ 紙と使えない鉛筆しかなくて、とても戸惑ってしまい、活動中はやるせなさがありました。活動を終えて振り返って、本当に貿易や交渉は大変で発展途上国の人は、こんなに大変なんだと思い、世界中みんなが助け合っていきたいと思った。
・ 豊かな国でみんな助けたかったけど､ただでやるとそこが落とし穴なのかなと考えた。
・ 各班条件が違ったり情報が入ってこなかったりしたので、大変な部分がありました。これを実際の貿易と考えると開発途上国は市場参入が難しかったり、物を作ったりすることが難しいと思った。

[青年海外協力隊体験談]

□ 満足度

（人）

満　足	33
やや満足	2
やや不満	0
不　満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- フィリピンとエチオピアの話を聞いた。フィリピンでは悪いイメージしかなかったけど、実際はいいところがたくさんあった。また、エチオピアではイメージなどが全くなかったし、知らなかったけど、エチオピアの事が分かった。
- 二人の話を聞いて共通していた事は「行ってよかった、少しかも知れないけど貢献できたかもしれない」とおっしゃっていたのでとても行ってみたいと興味を持った。
- 二人ともその国に必要な事を自分でしっかりと取り組んでいて、かっこよかった。すごいと思った
- 言葉は通じなくても気持ちがあればお互い、分かり合えるのだなという事がとても印象に残った。
- 活動について聞く中で､一番感じた事は「自分は何ができるか何をするかということ。言葉も通じず、考え方にも違いのある国へ１人で二年間過ごす中で、どんな事ができるだろうと自分と向き合って考えていかないといけないと感じた。
- 協力隊の方は言葉の壁もあって、宗教の事は一番気にしてることなのだなということも分かった。
- 体験談を聞いて、滞在期間を延長したくなる魅力があるんだなと感じた。パートナーの方が来ない場合でも、１人で行動に移すところに驚いた。言葉の勉強も大事だけれど、行動する事がまず必要だと感じた。
- 他国は自分が思っている想像上の国であって、貧困とかとても悪い印象の国でもその国なりの幸せがあるんだと思った。
- インターネットやパンフレットでは分からない個人からの具体的なお話が聞けて本当にためになった。
- 一番思ったのは先入観だけでその国を判断してはいけないなということ。
- 『青年海外協力隊』という言葉は今まで何回も聞いたけれど、具体的な内容などは知らなかった。知らない国に行ってみて、本当のその国のよさが見えてくると聞き、私も知らない国に貢献しながら誰か知らない人の良さなどを見つける人になりたいと思った。
- フィリピンの都市部とその周辺部の貧富の差がとても大きい事、エチオピアでの衛生面の指導。行ってみないと分からない海外の国がたくさんあり､もし自分が行くなら､全力でその土地の人々の力になってあげたいなと思った。
- なんとかして思いを伝えたりして､現地の人ととても仲良くなれるような隊員に憧れる。

・ 一つの国を紹介するのに対し、長い時間を費やしてくれたおかげでより詳しく理解できたが、もっとたくさんの国について知りたかった。

[青年海外協力隊活動計画作り]

□ 満足度

（人）

満　足	30
やや満足	5
やや不満	0
不　満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ 想像以上にトピックを決めるのも作るのも難しかった。チームワークが足りなさ過ぎたと思った。
・ チームで協力して構成を考える事がとても楽しかった。活動計画作りが完成したときの達成感がよかった。
・ 一つの事を解決しようと考えるうちにいくつも問題が出てきて、一つでさえ解決する事は難しいのだと感じた。
・ 現地の人たちの話を聞かないと、困っている事や助けてほしいところが分からないと思う。
・ 隊員のつもりになって考える事でいろんな考えが出てきたし、本当にみんな違った考えを持っているなと思った。隊員として任地へ行ったらこんな感じで活動して行くんだなと思った。
・ 村にはたくさんの問題があって全てを一度に解決しようとすると、無理だった。チームで話し合って、優先順位をつけたり、村の人とのコミュニケーションが大切だと感じた。
・ 班のみんなで意見を言い合ってどんどん解決内容をまとめる事ができてよかった。
・ 多種多様な問題の中から自分にできることを見つけていくのは大変だったが、逆にやろうと思えば何でもできると思った。
・ チームで役割を分け上手く回っていたと思う。意見を現地の方に否定されるのはつらかったけど、まとめられて良かった。
・ 村の人はまず聞く耳を持ってくれなかった。その人達をどうやったら自分たちの考えを聞いてくれるのかとか、どうしたら上手くいくんだろうと考えるのがとても難しかったけど、こういうことを考えたりするのは初めてだったから良い経験だった。
・ プリントの情報だけでなく現地の人の声なども聞くことにより具体的な発想や、現状が分かったので、内容が理解しやすかった。
・ 誰かの生活環境を変えることは難しくもあり、とてもわくわくした。自分もいつかこのように人の役に立てれたらいいなと作業しながら感じた。
・ いろんな人の立場に立って、何を求められているのかを考えるのが大切だと感じた。

・ グループで話し合い、私達にできることはなんだろう？と考える事ができ、協力隊になった気分だった。
・ 案が出ても、できる可能性があるものが限られてて意外と考えさせられた。
・ グループでたくさん笑いながら良い計画を立てれた。
・ 村の人々にはさまざまな状況や立場があるので、その人々一人ひとりから協力を得る事や、計画について誰一人不自由がないようにするという風にするのはとても難しい事だと思った。

□ **今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったことなど、2日目を振り返って自由に書いて下さい。**

・ 今日のゲームや計画作りで、グループでの協力が特にできたと思う。
・ 国際協力について深く知れ、身近に感じることができた。
・ 他の国に行かれた方々の体験談ももっと聞いてみたかったなと思った。
・ 2日目ということもあり、グループのメンバー同士、気軽に話せるようになり、嬉しかった。今日の活動全体を通して一つの考え方に縛られてはいけないということを気付かされた一日だった。
・ 私の絵を描くという、役に立たないと思っていた特技を、活かす事ができて自分に前よりも自信がついた。国際協力を以前からやってみたいと思っていたが、体験談を聞いて改めてやってみようと思った。
・ 活動計画作りが一番大変だった。村の人達はやっぱり当然だけど、私達の価値観や考え方と違うし、私達より知らない事が多いように感じた。
・ 自分の知らない事が多く、世界は広いなと感じた自分のできることを考えるにはとても良い一日になったと思う。その村に行ってみないとどんな言語なのかや、その村の現状や課題は見えてこないので現地に行くのは大切だと感じた。
・ バリボ村の村人に質問しに行くときに、日本人の感覚と村人の感覚ではずいぶん違うところがあったので、世界にはあらゆる生活、文化があると再確認できた。
・ 青年海外協力隊を楽しそうだなと思う反面、計画作りで、とても大変なんだなと感じた。たくさんの意見を交換しながら話し合いができ、新しい捉え方も学ぶ事ができた。
・ 様々な国が様々な問題を抱えており、一つずつ解決するのはとても大変な事だと思った。また豊かな国が貧しい国の事も助けていくことが、自分の国のことだけを考えがちになるが、大事になっていくと思った。
・ 言葉の壁をどうやって乗り越えたのか、言葉の壁にぶつかりながらどのように伝えていったのかが知りたかった。

３日目（生徒用）

[青年海外協力隊活動計画発表]

□ **満足度**

（人）

満　足	27
やや満足	8
やや不満	0
不　満	0

□ **感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述**

- いろんなテーマ、問題がある中で、様々な解決策があってたくさん学べた。
- まだ具体的に考えると課題がたくさん見えてきたのでもっと話し合いたい。
- みんなを見ながら話す事ができなかったのでそこが反省点。
- 緊張したけど準備してきたことを発表できたのでよかった。
- 各グループでの一番の課題がそれぞれ違い、そういう視点もあったのかという発表がたくさんありよかった。
- 皆で読む練習をたくさんしたので、本番も上手くいった。他の発表を見て、皆違って皆良かったので、個性が出るなと思った。
- 自分たちの考えた計画を伝えるのは難しいと思った。
- みんな同じ資料や話を聞いたのに、全然違う内容、方法を考えていて、面白いなと思い、また、その先のことや具体的なことまで各グループで深く考えていて、いいなと思った。
- 班ごとに着眼点が違っていて、色んな活動があるんだと分かった。
- みんなそれぞれ違う観点から見ていて、色んな考え方があってとても楽しかった。
- 自分が考えていたアイディア以外に全く思いつかなかいアイディアがいっぱいあり、驚きの連続だった。自分達の発表では司会者の人に「ここはどうするの？」と聞かれたり、計画作りの難しさを実感した。
- 質問されて答えられなかった事があったのでもう少し考えとけばよかった。

□**3 日間を通して、このプログラム全体の満足度は＿＿＿＿パーセント（%）**

（人）

100%以上	22
90-99%	10
80-89%	3
79%以下	0

満足度の理由

【100%以上】

- 全てが初めての経験で、不安より楽しさ、好奇心の方が上回り、積極的に活動でき、

またやりたいと思えたので良かった（100%）

- ほとんど違う高校のメンバーと過ごして始めは不安が大きかったけれど、どんどん仲良くなれて、たくさんの良い経験ができて本当によかった（100%）
- 固定概念にとらわれていたことに気づいた。自分は人に意見を押し付ける事があるので、そこを直していこうと本気で思う事ができたから（100%）
- めったにできない体験や世界で起きている問題について皆で語り合ったり、教えあったり、とても勉強になったから将来は国際協力に参加してみたいと思った（100%）
- 私の考え､思いを良い意味で 180 度変えてくれたから。本当に友達に勧めたい（100%）
- 国際協力や世界の文化などたくさんのことを学べ、自分の見える範囲が 10 倍くらい広がったと思う（100%）
- たくさんのプログラムがあったが、どれも楽しく、分かりやすくてよかった（100%）

【90-99%】

- 99% としたのは、1% は自分の思いをあまり出せていなかったから。やはりまだ自分の思いを人に言葉として伝えるのは難しいものがあった。もっと精進したいと思う（99%）
- ほとんど楽しく活動できたし、考えを深める事ができたけど、青年海外協力隊の計画はもっと良い感じにできたんじゃないか、もっと具体的にできたんじゃないか、という後悔が残ったから（95%）
- 交流会で言葉の壁を感じ、ここで満足してはいけないと思ったから（95%）
- スペインの人ともっと会話がしたかった（95%）
- もっと研修員の方と交流したりしたかったな…というのが－ 5% の理由（95%）
- JICA が少し分かった（92%）
- 自分の班の人とは交流できたけど、他の班の人や研修生の方とはあまり交流ができなかった（90%）
- 自分の体調を万全にできなかったことで、他の人に迷惑をかけたから（90%）

【80-89%】

- 普段考えないことを考える機会が多かった（88%）
- もう少し、研修員の方々と交流する機会が欲しかった（87.8%）
- 話し合いが充実しなかったことが -20%（80%）

□ 一番印象に残ったプログラムは何ですか。その理由を記入してください。

（人）＊一部複数回答あり

国際交流パーティ	22
ワークショップ（貿易ゲーム）	5
青年海外協力隊活動計画作り	5
青年海外協力隊体験談	2
クバーラ	1
活動計画発表	1

[国際交流パーティ]

・ 生まれて初めて言葉の壁に直面した。
・ 言葉の壁は高く大きなものだと思っていたので、交流しているとき何を言ってるのか分からなかったし、どうしたらいいか分からなかった。しかし、自分の聞こうとする気持ちと相手も一生懸命伝えてくれるので、その気持ちとで、会話が少しだけ出来たと思ったから。
・ 今まで知らなかった国の事についてたくさん教えてもらい、行きたいと強く思った。言葉の壁に戸惑う事もあったが、一緒にごはんを食べたり、踊ったりしたので絆が深まった気がする。

[国際理解ワークショップ（貿易ゲーム)]

・ 貧しい国と豊かな国があって、自分の国の事だけ考えがちになるが、視野を広めてみる事が大事だと考えることができた。

[青年海外協力隊活動計画作り]

・ このプログラムで一番メンバーとの距離が近くなった。
・ 村人と話をする中で自分の常識は人の非常識だと改めて気づいた。
・ みんな協力ができていて役割分担が早く決めれて、後は作業も楽しく協力しながらできたこと。

[青年海外協力隊体験談]

・ 最初はクバーラが楽しみでやった後も印象的だったけど、フィリピンとエチオピアの話を聞いたら、とても新鮮で学ぶ事が多く、もっと聞きたい・もっと知りたいと思ったから。
・ 自分が行ってみないと分からない事だらけで、話も通じないし、食べ物に好き嫌いが出てしまうと思った。

[クバーラ]

・ 初めに持ってくることみんな打ち解けてよかったと思う。

[活動計画発表]

・ どのプログラムも印象に残るものだったがやはり自分たちの考えた事を発表する事は難しく、また決められた時間の中で考える事、これを現地で行う事はやはり難しい事ではないかと思う。

□ **最後に何か書きたいこと、伝えたいことなどがあれば自由に書いて下さい。**

・ ほとんどが1, 2年生で3年生の参加者が少なく話し合いで少し気まずくなるか心配だったが、とてもフレンドリーな子のおかげで、学年関係なく会話する事ができた。
・ 自分の将来について「自分に何ができるか」を本気で考えた3日間は初めてで、自分としっかり向き合えたかなと思う。
・ 世界はもっともっと広いものだと思うので、ここだけで終わらず、まだまだ学習していきたいと感じた。
・ 私は世界一周するという夢がある。この研修ではそのための基盤を学ぶ事ができて、

大変嬉しく思う。

- 青年海外協力隊の体験談など、貴重なお話もしていただいて、とても勉強になった。またスタッフの皆さんにはこのプログラムのために、たくさんの準備、分かりやすい説明、楽しい活動を用意していただき感謝している。
- 他人とグループを作り、いろんな価値観を知ったし、自分の未熟さに改めて気づかされた。この経験を活かして学校生活も頑張りたい。
- このような機会に出会え、自分自身がとても成長できたと感じている。この経験をこれから、たくさんの人に伝えていけたらと考えている。
- 3日間とても充実していて一生の思い出になったと思う。国際協力の大切さや世界の国々の色んな価値観を知る事が出来て本当に良かった。私自身のこれからの将来に繋げていけたらといいと思う。
- 問題解決のためには、人々とコミュニケーションをとる事は本当に必要不可欠だと思った。なぜなら現地の人々はその土地のことを詳しく知っていて、協力が必要だからだ。「相手の立場になって考える」事を意識して行こうと思う。

2015 年度　第 1 回目　高校生国際協力実体験プログラム アンケート

1 日目（教師用）

1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

[自己紹介・アイスブレイキング]

- 全体を通して大変良い活動でした。学校紹介では、1 分間の制限時間をオーバーさせなかったのは良かったです。生徒は決められたルールを守る事の大切さも分かり、その後の活動もスムーズに流れると思います。
- 言葉を使わずに誕生日ごとに円になる活動では、まとめとして、世界の異なる言語間でのコミュニケーションの話などに結びつけたらいいと思いました。
- 行ってみたい地域、好きな食事に分かれる活動は、選択肢が不明瞭でした。
- 緊張がほぐれて生徒達が楽しそうでした。引率職員にも入るように最初に声をかけていただけるとありがたいです。
- 車座になるよりステージまで各学校来た方が模造紙の内容が良く見えると思いました。
- どの学校の生徒も大変良い自己紹介をしていました。学年関係なく班分けされているようでとても良い。
- 自己紹介はこれだけの人数なので伝わらないと思うので、今回のような簡単なものでよいと思う。ただ学校紹介はせっかく模造紙で用意したものでもあるし、時間が 1 分では短くもったいないように思えた。後で展示されていたが、生徒が言葉で伝えたものの方が印象に残っている。
- 自分の学校紹介は面白く、生徒のみならず教員の間の学校間理解も深まり、また交流が進みよい機会となりました。

[クバーラ]

- 異国のスポーツの紹介、生徒達が楽しく取り組めるスポーツとしては最高の内容だったと思います。
- 初めて見たスポーツだったが、最後には生徒達もルールを覚えて楽しんでプレーしていたのが印象的だった。
- 女子生徒が多い事もあり、人間関係のトラブル等心配していましたが、仲良く協力して活動を楽しんでいたようなので安心しました。そこが道具も使わず、運動能力もさほど影響しないクバーラのすばらしさであると感じました。

[国際交流パーティ]

- 生徒が積極的に動いていて感心しました。研修員の先生方も辛抱強く生徒の話を聞いたり、説明したりしてくださったので大変ありがたかったです。
- 英語の重要性を生徒達も感じてくれたことと思います。もっと大切な事は、英語が話せなくてもコミュニケーションが可能なことに気づいてくれたらいいなと思います。
- 生徒達が身を乗り出してお話を一生懸命聞いている姿がとても良かった。英語ネイティブでない人々の英語に触れ、感化されることもきっと多いと思う。

・ テーブルで２名の研修員がいるところの配置は離してもらえればより多くの生徒が話してみようと思うのではないだろうか。
・ 普段あまり接する事のできないアフリカの方々と交流できて非常に良い経験になったと思う。
・ 生徒の１人が「話される英語がいつもと違う」と言っていました。言語１つとっても、日常的に文化の多様性を伝えているつもりではありましたが、なかなか困難であることを改めて考えさせられました。
・ 研修員の方々に、「生徒達にいっぱい話す機会を与えてほしい」と指導して頂いたら、さらに充実した内容になるかと思われます。
・ ただ会話で終わるのではなく、生徒に質問させ、用紙にまとめ、発表までさせたことが動機付けになったと思います。

[そ　の　他]

・ 企画、準備、進行等大変だったと思いますがどの活動もスムーズに進行しており、生徒も積極的に参加していたので大変良かったと思います。また、携帯を使わせないというルールや、引率者も活動に参加させる点など、細かなところまで考えていただき、このプログラムの意図が十分伝わったと思います。
・ 各国のフードも楽しめました。何より食べ物は最強のトピックとして交流を深めてくれます。

２日目（教師用）

[朝のつどい（アイスブレイク）]

・ 最初簡単そうに思え、途中から日本人には慣れていない動きがあり、生徒は大変楽しんでいた。朝のウォームアップというちょっとした活動においても異文化を感じることができ大変ありがたいです。
・ ラジオ体操を嫌がる生徒でも、これなら楽しく体を動かすことができそうです。
・ 制服の生徒は少しやりにくそうでしたが楽しそうにできていました。
・ 欧米中心の情報が入ってくる中でそれ以外の地域のよさを理解するという機会は貴重だと思いました。
・ ビデオを見ながらやれたのがよい。

[国際理解ワークショップ（貿易ゲーム）]

・ 恵まれた国、恵まれない国の実体験ができたことは生徒達にとって良い経験になったと思います。
・ 振り返りにおいて、お金の管理や連合するというアイデアなど、どのような例が他にあったのか示していただいても良かったのではないかと思いました。
・ 楽しみの中に学びがあってよかったです。他国と共生していく社会の縮図を現実のものとして生徒が実感してくれたことを確信しています。
・ 持てるものはさらに栄え、持たざるものはさらに貧しくなる感覚を体験できたようで

した。ただ持たざるものだった班はダメージが思ったよりあったようで、その後の活動もやや遅れ気味になっていたようでした。

・ 自分で動いて他グループと交渉しなければいけない状況で生徒は自ら動くという積極性も身に付けたようです。
・ 自然とリーダーシップをとれる子が現れて交渉したりリサーチしたり、それぞれの持ち味を垣間見ることができた。疑似体験とはいえ貧富の差を肌で感じるので少し後味の悪さが残るが、これが後々本当に海外に行ったときに生きてくると思う。
・ テレビで以前ヨーロッパの学校の社会科で国防ゲームを取り入れているのを見たのですが、生徒達の意識喚起に使えそうだと思いました。
・ 生徒達にとっては、協力隊をイメージするのにかなり有効なワークショップだったと思います。

[青年海外協力隊体験談]

・ 帰国者の発表を聞くと明日からでもまた行きたくなります。とても興味をそそられる素晴らしい内容でした。
・ 国際協力のあり方について学ぶのに加え。キャリア教育の一環として生徒達に話を聞いてもらいたいといつも考えています。
・ 多くの生徒にとってなじみのない国ではあったが、しっかり現地の様子が伝わってきた。
・ 私自身シニアの一員として活動したいと思いました。
・ 88 カ国 4 万人以上長年にわたり多大な貢献を海外に行ってきたことは、ある意味、国内ではあまり知られていないことだと思いました。メディアがあまり特集しないのはなぜでしょうか？ その広報活動が現在議論されている安保法案への国民の意識形成のバランスをとっていくものだと思います。
・ 女性の DV の状況や、HIV 問題についてももっと詳しく聞けたらなと思います。
・ 想定外の出来事が当たり前の途上国での協力活動を 2 年という短期間でひとつの形にするということの面白さと大変さに生徒達も気づいてくれたと思います。
・ 失敗例などがもっと聞けたらと思いました。また専門スキルを必要としないコミュニティ開発の体験談もあればと感じました。

[青年海外協力隊活動計画作り]

・ 教員チームも生徒と同じように計画作りを体験するということで、悪戦苦闘しながらも何とか参加させていただきました。生徒の動向も見つつ、計画づくりも行ったので、多少どっちつかずになってしまった感があります。
・ 写真をとる余裕なく、はまってしまいました。生徒の動きがかなり活発になり、話し合いも活性化しているようすに感心し、嬉しく思っています。
・ 非常によく工夫が凝らされ、生徒達が隊員気分になるには十分なセッティングであった。
・ 実際に計画を立てることで、現実の難しさを体感することができました。
・ ある国の援助を考えるときに、物事を多面的に見る、知恵を絞るといったことがいかに大切か学べたのではないかと思います。今後の生徒の課題解決力が増すと思います。
・ 劇中のそれぞれのみなさんの演技が素晴らしかったです。ただ、台詞を暗記して頂い

たほうが生徒も内容に集中できるのではと感じました。

［そ　の　他］

・ 体験談では実際の動画等が少しでもあればと思いました。各活動後の振り返りにおいて、生徒の意見を共有する時間が十分あり、普段学校で教師が十分時間を確保する時間は少ないので、反省したことでした。
・ 床に座ったり作業したりすることも多く見られたので２日目の活動は全員ジャージでも良いような気がする。
・ この研修への教員の関わり具合を正直に話したら来年の引率者は見つからないかもと思いました。
・ マイクを使っても生徒の声が小さいのが気になる。
・ 他校の高校生と積極的にコミュニケーションする教え子を見て､非常に感心しました。

３日目（教師用）

1.3日間を通してこのプログラムの満足度は［　　］パーセント

（人）

100%以上	5
90-99%	4
80-89%	1
79%以下	0
記載なし	0

理　由：

・ このプログラムを通して生徒の意識は確実に変化すると思います。従来の途上国に対する見方もただ恵まれない国という考えから、何か自分がその国のために力を注げないかという詳しい見方をするようになるでしょう。(100%)
・ 生徒の成長を見ることができました。学校の授業で今後、途上国への支援計画づくりを行っていく予定であるが、今回学んだことを生かして非常によい計画がつくれるだろうと期待しています。他校の生徒との出会い、外国人研修員の方々との出会い、お世話をしてくださったJICA職員の方々との出会い、これら３つの出会いで生徒達は今後ますます成長して行くことができると確信しています。(100%)
・ 何よりスタッフの方々の熱意を感じました。(100%)
・ 生徒が初日からかなり積極的に活動していて、さすが希望し集まった子ども達だと思いました。(100%)
・ 生徒達に学校の活動で不足している点（ディスカッションを通じて考えを整理し、それを人に伝えていくという体験）を訓練できたこと。貿易ゲームは世界の現状を身近なこととして理解できたし、交渉をするという体験で外交についても考える契機となったこと。最終日のプレゼンで研修の成果が確認できたこと。(95%)
・ 正直言えばグローバルリーダーを育成する学校であれば全生徒に体験させたいプログラムです。海外といえば先進国、英語圏が頭に浮かび、留学先もほとんどそのような

国です。今回参加した生徒が格差問題が一番印象的だった、周囲の生徒に伝えたいという姿勢と変化に驚きと頼もしさを感じました。(95%)

・ 他校の生徒の交流がほほえましく、これからの未来を担う力を感じた。(90%)

2．全体の流れ、時間配分は適切でしたか？

(人)

とても良かった	4
良かった	6
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

理　由：

【とても良かった】

・ 各プログラム終了ごとに達成感が高まっていったから。

・ 時間的にだれることなく主体的な活動を組んでいただいたので3日間早かったです。

・ 推進員の方々が非常に良く連携しスムーズに進行されていたので、体験談の中に生徒達が参加できるクイズやゲームを入れて、できるだけ聴くだけの一方的な話にならないようにしてみてはどうか。ところどころ間延びしたり生徒が昼食後でぼーっとしたりするところがあった。

【良かった】

・ 3日間で充実した内容を確保しつつ、生徒の健康面にも十分に配慮していただいた時間配分だと思います。

・ 50分が通常の校時なので、プログラムの流れはあると思いますが、もう少し休憩があったほうが集中できるかなと思います。

3．来年度の高校生国際協力実体験プログラムに向けて、改善点をご記入ください。

・ 自校の生徒の発表も記録をとらねばならず、審査の両方はかなり困難です。審査をするのであれば、記録をとったもの（写真を含めて）を後日頂ければありがたいです。

・ 今回の参加生徒は比較的女子が多く、人前で発表するのが苦手そうな子が少なくなかったので発表しやすくなるような仕組みがあればなおよいと思われます。

・ 二日目の昼・夕食もプログラムに組み入れて、JICAFEで海外の料理に舌鼓を打ちながら生徒同士の交流を深めてもよいかと思いました。

・ 個人情報等の関係で難しいかとは思いますが、他校の教師間、生徒間で事後のネットワークをつくっていくために参加者名簿のようなものがあるとよいと思います。

・ 開催時期としては7月いっぱいは前期補習、8月末は夏休み明けのテスト直前という学校もあるので8月上旬、8月お盆明けの実施はどうかとも思いました。

・ 行き帰り、国際交流パーティー以外はジャージで活動でよかったのでは？ 私服とすると年頃ですので気も遣うし新しく買うなどしてお金を使ってしまうことになるので、参加者が全員体操服かジャージのように指示してもらえると床での作業とかも気軽にできるのでよいと思います。

- 各国の研修員の方々と少しだけでも３日目に話をする機会がもてれば、子どもたちにとって良い振り返りになるのかなと思いました。
- 途上国の人々との交流の時間を増やしてもらうことと、生徒達が聞き手にならぬよう研修員に指導いただいたらと思いました。
- 高校生に青年海外協力隊に参加する事と、参加者のキャリアパスについて示してあげるとさらに希望が持てると思います。外国関係は保護者の意向もあり教員はなかなか推進しづらいところがあります。
- 紛争地域で活動する NGO と JICA の混同が起きているのでその違いを説明する機会があった方がいい。
- せっかくいい体験なのに毎年定期的に参加できるかどうか枠が少ないのが難点。学校の年間行事の中に盛り込むためにもできれば参加校を増やす、回数を増やすなど対応をお願いしたい。
- 2 日目のラストの夕食について、事前に遅くなる可能性を教えていただければ早めに買いに行くなどできたかもしれません。

４．今後、事後学習として取り組みたいこと、生徒たちと進めていきたいことをご記入ください。

- 今日の内容を３分間の原稿で学年集会で各自発表できるように取り組みたいです。
- アイスブレイキング的な活動など、入りやすいところから使ってみたいです。
- 国際教育の授業で参加生徒が発表する場を設け、他の生徒達へ発信していく。またここで出会った他の高校と何らかの形でつながりを持っていきたい。
- 文化祭で国際協力に関する発表をしないか誘ってみます。
- 楽しく学べる国際理解教育を、生徒とともに実践し、そこをきっかけとして様々な国の様相に思いを馳せる活動を進めていきたいです。
- LHR や総合学習の時間を使って、今度は体験した彼らに推進員役として貿易ゲームなどをリードさせる機会を作ってみたいと思います。
- 授業で大洋州の島国への支援計画づくりを進めていく予定です。
- エッセイコンテスト 2015 に応募させたいと思っています。

５．JICA の開発教育支援にどのような役割を期待しますか。

- 日本の伝統的な知識教授型の教育が転換を迫られています。学校だけでなく、企業や地域の持つ教育資産を巻き込みながら社会全体で子育てしていかなければならない。このような中、JICA の持つ教育力は今後ますます必要とされると思います。
- ぜひ中学校でもできることを紹介していただけると、中高での流れで長期的に多角的な視野を持ったグローバル人材を育成することができるのではと思いました。
- 子どもたちの殻を割れるきっかけを与えてくれるような活動を期待します。
- 文科省との連携を深めていただけたらと思います。
- 引き続き出前講座などでより多くの生徒に向けて世界を意識させる場を提供してほしい。
- 研修員との交流の機会をぜひ福岡市内にも設けてもらえたらと思う。
- 低学年層の教育支援を九州に広げてほしい。
- 多くの学校に今回のような取り組みがあることをさらに周知されることを期待します。

2015 年度　第 2 回目　高校生国際協力実体験プログラム アンケート

1 日目（教師用）

1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

[自己紹介・アイスブレイキング]

- 自己紹介に 1 分というリミットを設けたのはポイントを皆で協力して話し合い、発表させる事なので話し手も聞き手も集中力を高める効果があるという点でよかった。
- 学校紹介はそれぞれの特色を知る事が出来て良かった。
- 誕生日で輪になるものは答え合わせの後、もっと発展できたのではないか。例えば月ごとに集まって名前紹介ゲームとか。（お互いの名前をもっと工夫して覚えきれないかと思った）
- もう少し盛り上げて（場を温めるまではいかずとも…）ドキドキさせたりすると、話し終わった後に少しほっとした達成感が得られると思った。

[クバーラ]

- 適度な運動にもなり①協力隊の具体的な仕事、②道具を使わず出来る競技でのスポーツ振興について知る事が出来て参考になった。学校でもやってみたい。
- マダガスカルの体育の授業の実態が日本とずいぶんと違う事に驚いた。協力する事、ルールを守る事（整列を守る事）など、当たり前のことをクバーラというスポーツで体感させ、スポーツの面白さや勝つ事の喜びを子どもの頃に経験させるような工夫の視点は思いつかなかった。高校生は頭の回転も早く、人間関係も上手く作れていてかなわなかった。
- 分かりやすく、楽しめるスポーツだった。学校でもクラスで楽しんでできそう。是非やってみたい。小学生からでも海外のスポーツに親しめるものなので、我が子たちにも広めておきたいと思う。
- 良く出来たスポーツだと思った。ルールは簡単なスポーツであるが、チームワークがないと全体のつながりがなくなり、得点する事ができない。学校に帰ってこのスポーツを取り入れてみたいと思う。
- 作戦を立てた戦略での頭脳戦やコツが分かってきて、生徒達が工夫していて、生徒同士で刺激できたのではないかと思った。体を動かす事で教員同士も打ち解けた気がする。
- 単なるスポーツ体験だけでなく、なぜこのスポーツをマダガスカルで始めたのか、理由を学んだり、実際に青年海外協力隊の方が活躍されているのをビデオで観ることが良い勉強になると思った。また、知識だけでなく体験させて頂き、更にルール感、集団で動く事の大切さを感じることが出来たと感じた。

[国際交流パーティ]

- 研修員の方々との交流が予想より盛り上がっていて、日本人特有のモジモジが払われたと思う。英語が通じないと生徒は困っていたが、逆に他の方法でコミュニケーションをとろうとする事を学べたと思う。研修員の方々が一生懸命テンションを上げてく

ださっていたことに感謝している。

・ 大変有意義で充実した内容であった。本校ではアクティブラーニングの授業を必ずすることになっているが、今回の国際交流パーティーに参加して、その本質がこの国際交流パーティーにあるように思えた。

・ 食材から、その国の文化的な要素・背景を考え、研修員の方との交流に自然にとつながり、その国について深く知りたいと思った。研修員の方々がそれぞれどのような目的で JICA 研修に来ているのか、どのような事が問題になっているのか、少し知りたいと思った。普段は英語を学んでいる生徒達が、スペイン語に苦労している様子が興味深かった。

・ 地図帳を持参させておけばよかったと思った。地元の事を紹介できる何かもあったらよかったと思った。

[そ の 他]

・ 初めて参加させていただき、大変満足である。本当に生徒たちを連れて来れてよかった。生徒がいきいきしているのが印象的だった。

・ プログラムが終わり、生徒たちは更に研修員の方達とフロントで話が盛り上がり、お騒がせしてしまったのではないかと思う。申し訳ない。しかし生徒たちとのミーティングで自分から話しかけられて本当に嬉しかった、楽しかったという感想が出て、プログラムに参加させてよかったと感じた。

・ 館内、エレベーター、部屋のテレビ等、国際交流センターというだけあり、英語に溢れていて我が校の生徒たちも満足していた。国際交流パーティーの時間がとても早く感じた。もう少し長くても良いかも…と思った。

・ 明日はどんな活動があるか楽しみである。なぜなら今日 1 日が本当に充実していたから。生徒、教師とも最初は疲れていたと思ったが、活動を通して元気になっていった。

２日目（教師用）

[朝のつどい（アイスブレイク）]

・ 「ナマステ体操」、名前だけは聞いたことはあるような体操だったが、結構ハードな動きで汗がじっとりと出て、体が暖まった。心の中もアイスブレイキングとなってよかった。

・ 朝、気持ちをほぐすのに最適。10 分という長さも動きが色々なものが出てきて盛り上がったのが良かった。

・ 全身をほぐしながら、他国の文化を理解できるプログラムだった。後半の手足の構えは日本にいてはまずあり得ない動きで、最後にくるくると回り始めたあたりから体操なのか踊りなのか分からなくなるところが文化の違いなのかなと思った。

[国際理解ワークショップ（貿易ゲーム）]

・ 貿易ゲームにいきいきと取り組む生徒たちの姿を見て、開発教育の手法の素晴らしさを実感した。各班ともこのワークショップの意味をよく理解していたように思う。

・ 貿易ゲームはとても面白い体験だった。やっている最中は技術不足を補う事の難しさ、お金がないと技術も得られない…と否定的に見ながら感じたが、実際何もない地においては何か他の喜びや楽しみを見つけ、それなりに楽しそうであったことにびっくりした。幸せの価値観の違いを見ることが出来た。また、情報格差が更に格差を生んでいる事も見ることが出来た。
・ 生徒が必死になって取り組む姿勢や格差の状況が現実と比べられるアクティブな取り組みが印象的だった。身をもって学べる授業を是非実践したい。

[青年海外協力隊体験談]

・ フィリピンに関して…「言葉の壁と保守的な地域の壁」という言葉が印象的だった。コミュニケーション能力を育てる」事の大切さを感じた。また、資源のない国、地域での「ものづくり」のヒントとしてゴミから服を作る発想に感動した。柔軟な心と頭が必要なのではないか…と思った。
・ エチオピアに関して…「その土地の独自の文化が分からないと援助的活動が出来ない」と言われたのが心に残った。自分の（日本の）価値観で見ない事を忘れないようにしたい。やはりそのためには、コミュニケーションが一番大事だと思った。
・ どのような思いで、どのように行動したのか、またその国の状況をうかがい、「幸福」の価値観はそれぞれあることや」、課題を見つけ、やりきるところに自己の成長があると分かった。
・ 楽しみにしていたパートだったが、期待通りだった。フィリピン・エチオピアの事が今まで持っていたイメージとは違う側面から知る事が出来て、満足だった。隊員さん方の苦労や喜びを知る事ができたのも貴重だった。あっという間の時間だった。
・ 自分に何ができるのか、またその着想がニーズと合っているかなど色々考えさせられたが、とにかく前向きに動いてみる事、勇気のいる事だと思った。計画通りには行かない事も想定内でやっていかないとモチベーションを保つのが難しいだろうと考えた。

[青年海外協力隊活動計画作り]

・ どこまで自由に活動できるのか、実際に悩みながら計画を立てるのは難しいが、非常に多くの条件を考慮しながら、計画を進めていく、具体的なワークショップだった。村人の意識を変えていく事はとても難しい事だと思う。外国の援助に頼る一面もあるとすれば、新たな課題も見えてくる。
・ 長丁場だったが、グループでの話し合いやそれぞれの意見を尊重しようとする雰囲気があった。生徒たちは図書館にも行ったようである。実際は一つの事をするのに現地の方々の理解を得ることが大変なんだろうなあ、あまり困り感がない（＝幸せ）ところに改善をするのは割と時間がかかるのかもなあと思った
・ 生徒が最終的に何をすればよいか最初は指示されて活動しやすかったと思う。
・ スタッフの皆さんのロールプレイは自己体験に基づいているのか？リアリティーがあってよかった
・ 偏見を捨てる事の難しさを感じた。実際の事情を見て「この援助が必要ではないのか」と思っていても、実際、村人に話をしてみると、とても問題に感じている様子がない

ので、助ける必要が本当にあるのか…この村人はとても幸せそうだ、と思ったりした。しかし、援助は必要である。どのように村人をその気持ちにさせるか…もまたコミュニケーションの大切さではないかと思った。

・ グループ活動を通して、生徒たちがだんだん自分達の意見を述べたり、協力して計画を作っていくプラスの流れが目に見えて分かった。隊員さんたちの楽しい演技で生徒たちの積極性も高まっていたようである。何事も「しかけ」が大切である事を学んだ。
・ 生徒と同様に参加して、隊員の方の苦労も入り口部分ではあるものの、身をもって理解できた。ただ、計画を立てたことに関しては実際にやってみたいという思いも沸いてきたので、生徒たちもそう感じることが出来たのではと思う。

［そ　の　他］

・ 講演会以外の開発教育の授業展開を初めて見た。夜の懇談会は遅くまでお付き合いくださって感謝している。自分の学校での展開をイメージしている
・ 「貿易ゲーム」の生徒たちの感想で「はっ」とさせられた一言があった。現実を表してはいけない点で「どこの国も物を作ってお金を稼いでいた」という一言だった。実際は「物をつくる」だけではない事が多いような気がする。サービス業や最近は通信業等、目に見えないものに代価を払うほうが多い気がする。物への代価の方が心の暖かさを感じやすいかな…と感じた。
・ 交流会、本当に楽しかった。もっと楽しい興味深い貴重なお話を伺いたかったが、2時間半があっという間に過ぎてしまった。機会があれば、皆さんと飲みたい。本当に楽しかった。

３日目（教師用）

1.3日間を通してこのプログラムの満足度は［　　］パーセント

（人）

100%以上	5
90-99%	4
80-89%	0
79%以下	0
記載なし（三重丸）	1

理　由：

・ 国際協力に関する気づきがそれぞれのプログラムにあったと思う。また、生徒の意見も聞いていても新たな気づきがあった。何よりも「現地の人々、もの、気持ち」を大切にしなければならないと思った。私達が支援したいと思う事と現地の人々の needs があっているかという点も大切にすべきだという事を学べて本当に良かったと思う。（100%）
・ 工夫された手法やゲームなどを通して生徒に考えさせることができている。また、同じ学校で固まらず、ばらばらになるところがいい。話し合ってプレゼンまでつなげるところが良い。また、プレゼンの仕方、伝え方まで指摘していただける。実際に研修

員や青年海外協力隊の方との話が出来るのがよい。(100%)

- 生徒の考え、行動する力を引き出してもらえ、学校とは違う姿を見ることができた。また、世界へと視野を向けることができ、今後のニュースの見方、新聞の読み方も変わるのではないのだろうか。私自身も学ばせていただいた。JICA 九州の皆さんには大変お世話になった。感謝している（100%）
- 様々な活動を通して国際理解を深めつつ、国際協力について考えを深めさせるという今回のプログラムは良く考えられたものであり、引率教員にとっても今後の自らの授業に活かせると貴重な経験となった。生徒たちにとっては他校との生徒たちとも交流を深めることができ、国際理解だけでなく、コミュニケーション能力、協調性が育まれたと思う。(99%)
- 初日、二日目のワークショップや交流会を通して国際協力の背景にある様々な問題に対する理解、具体的な問題に対するアプローチの仕方など、実際の開発途上国の現状に即したプログラムだった。全体から個別の事案へと展開が工夫されていて自然な流れだった。生徒が応募時にあげた内容が深められる機会があればもっと良かった。(90%)

2．全体の流れ、時間配分は適切でしたか？

(人)

とても良かった	6
良かった	4
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

理　由：

【とても良かった】

- アイスブレイキングで一日目、二日目始まり、それぞれにいいタイミングだと思う。また国際交流もまず、写真を見た後に考えた後でするのがとても良かった。また、プレゼンの練習の時間が最初は長いかな…と思ったが、research の時間がかなり必要であることが大事だと思った。
- グループワークをベースとしたワークショップで、タスクが明確、フィードバックが十分になされていて、それぞれのワークショップで達成感、新たな課題の発見があってよかった。

【良かった】

- 50 分の授業に慣れているせいか、休み時間までが少々長いように感じた。
- 説明が少し長く感じるプログラムもあった。
- もう少し休み時間を長くしてはいいのでは？

3．来年度の高校生国際協力実体験プログラムに向けて、改善点をご記入ください。

- 生徒と推進員の皆さんと直接、まとまった時間を作って話をする機会があっても良いかと思った。

- 交流パーティーで研修員がどんな形で来ているのか、日本にどんな期待をしているのか？等話す機会があれば良いと思った。
- ホテルの部屋割りだが、極力、生徒たちはシングルではないようにご配慮していただければと思う。プログラムの分かち合いを同部屋で出来たらよかったのにと思った(移動すればよいのだが)。
- スタッフの方と生徒がもっとコミュニケーションが取れると良かったかもしれない(ちょうど進路活動にもつながり、気づきにもなるので…)。
- 最後のプレゼンでメモを見ながら発表する生徒が多かったので、基本的なプレゼンの仕方を練習する時間を設けてはと思った。
- 生徒同士の交流がもっとあればと思った。
- 協力隊に行ったことがある人がたくさんいらっしゃるので、小グループのディスカッションがあっても良いと思った。一方的に生徒を聞く時間は出来るだけ少ないほうがよいと思った。また各グループにチューターをつけてみてはどうか。
- 2日目の先生方の懇親会の間、生徒が外で何かあったら大変かな・・・と思った。懇親会はとても良かったけど、時間をずらすか生徒たちは施設の中で食べる等をするといいのかなと思った。
- 生徒の将来の夢やこのプログラムに期待する事の情報交換やその後の内容を振り返る時間（個人）がもう少しあれば良いと思った。JICA が取り組んでいる８つのプログラムについても詳しく知りたいと思った

４．今後、事後学習として取り組みたいこと、生徒たちと進めていきたいことをご記入ください。

- 11日に予定されているSENESYS中国との交流学習及び、総合学習や課題研究学習に国際協力の視点を加えて行きたい。
- まずは、どのような気づき、学びがあったかまとめて欲しいと思う。また、一年生にこのプログラム体験を紹介する時間があるのだが、その前にまとめて自分達のクラスでもプレゼンしてもらいたいと思う。
- 今回は３年生を引き連れてきたので、今後特別なことはできないかもしれないが、生徒のこれからの生き方に何かしらの影響があると思う。私は部活（ボランティア系）で生徒にいろいろ材料を提供していきたいと思う。
- この研修で学んだ事をまとめさせ、まずはクラスでプレゼンさせたい。学年、文化祭と範囲を広げられると良い。（文化祭はずっと先なので、そこまで繋げられるか分からないが…）
- SGIT の内容はまだまだ流動的なので、今回のプログラム内容（貿易ゲームなど）も組み込むことができないか検討していきたい。
- 秋に研究発表大会があるので、今回の学びのまとめとして、帰校後に発表準備を進めて行きたい。また、学校の文化祭でも、今回の学びを発表し、全校で取り組める事も考えて行きたい。（JICA 出前授業の利用など）

５．JICA の開発教育支援にどのような役割を期待しますか。

- 教員向けの研修も充実させればと思う。教育委員会の主催する各種研修とタイアップしてはいかがだろうか。
- このようなセミナーを通じて世界の現状や協力隊の活動経験を草の根的に日本の若者に広めていって欲しいと思う。また参加した生徒たちのプレゼン能力、協調性を育むことによって各学校に還元できるという点でも是非継続してこのようなプログラムを維持していただきたいと思う。
- このような活動が学校、学年単位で出来れば、もっと多くの生徒が学べると思うが…
- 教員への授業の指導や視点を教えていただけると嬉しい。
- 他者（他国）理解。

ジャイカ
JICA